

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修

1 国内研修

各教員の個人研究費を活用した研修活動は、平成24年度は3件、平成25年度は19件であった（巻末資料；（1）国内研修）。

研修参加の目的は主に、各自の教育・研究活動の改善を目的とするものであった。研修後、ほとんどの教員は、研修内容を講義・演習に活用する取組を行っていた。平成25年度は、平成24年度6月に提示された「大学改革実行プラン」の動きにあわせ、大学運営の基盤強化を目的とした研修が増加しており、主に大学運営委員会のメンバーが担当した。これらの活動は、平成25年度末に整理・検討した「宮崎県立看護大学の将来像を見据え、新しい時代に対応した大学改革の方向性構想」の提示（平成26年3月31日、4月1日）に繋がっている。

2 海外研修

海外研修は、平成24年度は2件、平成25年度は4件であった（巻末資料；（2）海外研修）。

これらの研修内容は、本学の学術・教育の発展を目的とした学術・教育交流協定締結大学への研修、学生向け海外研修支援としての短期研修プログラムである。主な渡航先は、タイ、韓国、カリフォルニア州サンノゼである。

研修参加の目的は、現地指導教員として、学生の安全を確保し、異文化での生活体験を通して学生が多様な文化・考えに触れ視野を広げられるように支援することであった。主に、若手看護教員が担当しており、国際交流委員会の支援を受けながら研修に臨んでいた。役割を推敲しつつ、教員自らもグローバル化に向けた意識を高める機会となっていた。

研修の成果も含め国際交流の成果については、第7章 国際交流の推進で報告する。

3 職員の研修

事務局職員が受講する研修は、そのほとんどが宮崎県職員研修規程に基づき実施されるもので、大きく分けると、自治学院研修、専門研修、職場研修の3つに分かれる。自治学院研修は、県職員としての全般的な能力向上を図るもので、県自治学院が実施し、大半が必修となっている。専門研修は、業務知識や遂行能力を高めるため、業務の主管課が実施する。職場研修は、所属長が指定した職員（本学の場合総務課長）が、所属職員に対して行う研修である。平成24、25年度の事務局職員の受講実績は、巻末資料の「職員研修報告書1」とおりである。

上記研修のほか、県が実施しない専門の分野で、他の機関が実施する県内県外の研修に、若干名が参加している。その実績については、巻末資料の「職員研修報告書2」とおりである。

第2節 FD活動（学部）

ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）活動については、中期目標・中期計画（平成21年度開始）に掲げ取り組んできた。

研究集談会（定例）の開催（発表及び参加）、学会発表や関連学会への参加等を通して得た教育及び研究上の成果を教育活動に活かし、特に教材の工夫等、教育の質向上に向けた取組を行ってきた。各領域では授業ミーティングを実施しており、授業内容及び授業評価の検討は若手教員が教育技術を身につけていく上において重要な場となっている。

また、本学では開学時より特に看護学実習の実習指導に焦点をおいたFD活動を行ってきた。看護学実習は看護学教育において重要な科目である。従って、臨地実習指導において指導能力の向上は不可欠であることから、指導過程リフレクションの強化を目的としたFDを推進させてきた。学生の看護者としての成長を促したと評価できる指導過程を省察し、自己の指導上の実践知を得るという取組である。参加教員は、全体会、各領域でのグループ討議を経て、対象への理解、指導の目標像や自己の指導上の課題等を明確にしていった。取組の経過及び成果については、「臨地実習における指導過程リフレクション成果報告書 平成26年8月」として刊行した。

平成25年度には、充実したFD運営に向けて、「宮崎県立看護大学におけるFDの基本的考え方」が学部長より提示された。その内容に基づき、基本的考え方及びFDの目標を全学的に共有した。現在、その目標に向けて各委員会が組織的に取り組んでいる。

FDの目標は以下の通りである。

- 1 学習環境を整え、質の高い教授活動を展開し、授業の目的・目標の達成を目指す。
- 2 看護者とその教育の独自性を反映した研究活動を行い、教育実践の質の向上、研究の発展、教育・研究上の成果を社会（地域）へ還元することを目指す。
- 3 看護学教育組織構成員としての自覚を持ち、その運営に携わりながら、教育・研究環境の整備、組織の維持発展を目指す。
- 4 主体的な学習活動を継続し、看護専門職者として専門性を高める。
- 5 自己の信念・価値観に基づき自律した職業活動を展開する。
- 6 相互に矛盾対立する役割期待を適切に処理し、意欲的に複数の役割を果たす。
- 7 卓越した問題解決能力を基盤とし、計画的・効率的に仕事を遂行する。
- 8 豊かな教養を基盤とする成熟した社会性を發揮し、他者との円満な関係性を築き保持する。

平成25年度の各委員会のFD活動に関する報告については次頁より記載する。

1 教務委員会	P39 - P41	6 国際交流委員会	P47
2 入試委員会	P42	7 研究紀要委員会	P48
3 学生委員会	P43	8 就職対策委員会	P49
4 広報委員会	P44 - P45	9 付属図書館運営委員会	P50
5 情報委員会	P46	10 看護研究・研修センタ 一運営委員会	P51

1 教務委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
4 ～ 7	実習指導において、医療事故を防ぐための教授方法について意識を高める。（看護部会）	「臨地実習における医療事故防止マニュアル」について討議を重ね、完成させた。	臨地実習Ⅱに向けて、各領域で、事故を未然に防ぐための方策の討議を行い、冊子を用いて実習施設と共有を図ることができた。
7	高等教育改革フォーラムに参加し、大学教育改革の動向を捉えて学部の教務に活かす。	公立大学協会による高等教育フォーラムに教務委員長と教務委員、事務職員とで参加。	第2期認証評価と大学の質保証とそれらに関連した公立大学政策・評価研究センターの動きについて知ることができた。教務委員長が連携研究員をつとめ、さらに情報収集を行っていくこととなった。
9	高等教育フォーラムの研修内容を本学教員に伝達し、大学教育改革の動向の周知をはかる。	研究集談会を活用し、教務委員長が研修内容をスライドと印刷資料を用いて教員に報告した。	数十名の教員が参加し、研修内容を共有した。教務委員会としての今後の方向性について質問があり、教務としての改革を推進していくことを確認した。
9	解剖学標本示説実習研修会（専門基礎部会）	<p>本年度から本学2年生の常態学実習に宮崎大学解剖学教室において解剖学標本示説実習を組み込むに当たり、事前・当日・事後の学生の指導を担当する専門基礎の教員の事前研修が必要となった。本研修会は、専門基礎の教員のみならず、すべての教員が身体内部構造に関する知識を広げ、今後の学生への看護教育の質的向上の良い機会になるとと考え、宮崎県立看護大学FD企画として実施した。参加した教員は10名であった。</p> <p>① 解剖生理学事前学習会 平成25年9月4日（水曜日） 15:00～16:30</p> <p>② 解剖学標本示説実習研修会 平成25年9月6日（金曜日） 13:00～17:00</p> <p>③ 学生実習をより良く行う目的で学生実習に向け意見交換会 平成25年9月9日（月曜日） 16:00～17:00</p>	<p>研修会に参加した教員は全員、この解剖学標本示説実習の意義を認めていた。主な内容は、実習でしか理解できない人体の構造を正確に把握することができることと生命の尊厳など、医療看護の倫理観の育成に極めて重要な実習であるとの意見で一致した。</p> <p>学生実習をより良く行う目的で、後日学生実習に向け意見交換会を行い、その会で学生が実習に参加する際にどのようなアドバイスが必要か検討した。主なものに人体の構造や疾病と看護の関連性、看護実技と人体の構造の関係、生活支援と人体についての説明が必要であり、学生が人体の構造をより理解し将来の看護支援に重要になると考えられた。</p> <p>また、実習参加による学生の精神的な影響にも十分配慮する必要があるという意見が出され、その意見も参考に学生実習終了1週間後にフォローアップのための講義を1時間くむこととした。</p>
12	高等教育改革フォーラム等に参加し、大	教務委員長が連携研究員勉強会、第2回高等教育改革フォー	「大学基準協会の第2期大学評価における現状と課題」「公立大

	学教育改革の動向を捉えて学部の教務に活かす。	ラム、評価担当者懇談会に参加した。	学政策・評価研究センター設立の経緯と連携研究員の役割・構成」「長崎県立大学での大学評価ワークショップの概要」「質保証と教学IR」について把握した。本学の内部質評価の現状と課題を明確にして、システム化を検討していく必要性について復命した。
12	実習指導上で感じる困難を解決するための方向性を得て、今後の実習指導に活かす。(看護部会)	12月26日臨地実習指導過程リフレクション全体検討会の実施 1事例が提出され、発表と討議が行われた。	看護系教員33名が参加。FD担当の教員は、事例の資料準備からアンケートによる評価まで関わることで、能力向上につながっている。参加者や事例提供者の学びについて、資料にて共有を図った。
2	専門基礎の助手1名が臨地実習指導に参加し、看護実践において必要とされる専門知識・技術の根拠を確認する。専門基礎科目で学ぶ知識の内容と定着状況の確認。専門基礎知識を活用して看護が展開できるように指導する。	2/24~28、3/3~7の間、学生8名の実習指導を担当した。	<ul style="list-style-type: none"> ●学生が身体内部のしくみを描くことが困難な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・透析を受ける患者の内部環境：強制的濾過が身体に及ぼす影響 ・糖尿病性腎不全で末期にある人の全身の衰えのイメージ(つながり) ・肝疾患患者の代謝機能の衰えによる全身のダメージ ●授業では理解度が高い学生(専門知識の修得状況は良好な学生)であっても実習当初は、実際の患者さんを目の前にして対象の何を観れば良いのかも分からず状態から学びが始まる。 既に学んでいる知識の引き出しのどこを開ければ良いのかヒントを与え、対象に起きている現実と繋げられるよう、指南役としての指導の役割を自覚した。
3	高等教育改革フォーラム等に参加し、大学教育改革の動向を捉えて学部の教務に活かす。	教務委員長が第2回連携研究員勉強会及び第3回高等教育改革フォーラムに参加した。	大学評価・学位授与機構の「教育の内部質保証システム構築に関するガイドライン(案)」について把握した。学長・学部長に報告し、内部質保証システムについて検討することとなった。中央教育審議会大学分科会で審議してきた「大学のガバナンス改革の推進に係る審議まとめ」について理解を深めた。
3	高等教育フォーラムの研修内容を本学教員に伝達し、大学教育改革の動向の周知をはかると共に将来構想と重ねて、教育の内部質保証システ	第2回連携研究員勉強会における「教育の内部質保証システム構築に関するガイドライン(案)」について学内教職員に報告(予定)	

	ムについての検討を進める。		
通年	学生指導や講義内容の充実だけでなく、討議を通して、教員相互の能力を鍛える場とする。（看護部会・専門基礎部会）	各領域別ミーティングの開催（定期・臨時） 講義、演習の準備・検討・評価 実習指導のふりかえり 学会発表に向けての研究討議 FD報告書に向けての若手教員の能力向上、双方向授業の展開、学生の主体性を育てる授業の在り方の検討など	領域ごとに、討議を繰り返すことにより、教員の能力向上を図っている。 学会での発表や、FD報告書に活かされている
通年	各領域で行われている技術教育の内容を共有し、学生に対して一貫した看護技術教育が行われるように、また、それを学生・教員共に評価できるシステムをつくりしていく。（看護部会）	看護技術教育ワーキンググループのミーティングを5回開催した。	ポートフォリオ作成の最終段階にたどり着いている。討議を継続する。 27年度までに、1年次から卒業までの技術教育の到達目標が可視化できることを目指して進めている。

次年度に向けての課題

- (1) 授業評価アンケート、授業実績評価についてP D C Aサイクルを意識した内容及びシステム化の検討
- (2) 部会ごとの授業レベル評価の総括を促し、その報告に基づき教務委員会として学部全体の授業評価を総括する。
- (3) カリキュラム検討ワーキンググループを設置し、カリキュラム評価を行い、改編にむけた活動を開始する。
- (4) 単位の実質化、学生の主体的学修支援としてのシラバス内容の検討を行い、改善策を策定する。
- (5) 学生の学修意欲を高め、適切な就学指導につなげるためにG P A制度の導入について検討し、実施要項案の検討を進める。
- (6) ひきつづき連携研究員勉強会及び高等教育改革フォーラムの内容を学内教職員に報告し、大学全体の動向の理解を広げ、本学の教育状況とすり合わせつつ教育の質向上の文化形成・発展につなげていく。

2 入試委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
4・7・10	進路相談会等において受験希望の高校生等に本学の特徴を説明できる的確な進路指導のできる教員を育成する。	進路相談会の相談員を過去に経験している教員と未経験の教員と組んで担当させることで、経験者の対応を学び未経験者へ進路相談のスキルを習得させた。	組ませて進路相談会に行った未経験者の教員（助手）が6名いたが、そのうち今年度単独で進路相談会を行った教員は4名であり、相談を担当できる教員数が増加した。
7・11	模擬講義において魅力ある講義を担当できる教員を養成する。	模擬講義の依頼には可能な限り対応するようにしているが、そのためには担当できる教員数を増やすことが必要である。そのため未経験者に他の教員の模擬講義を見学させ、単独で模擬講義を担当できるスキルを習得させた。	今年は1名見学に行き（7月）、単独で模擬講義を行った（11月）。アンケートから「看護への関心が高まった。」、「本学への関心が高まった。」という評価を受けた。
5	大学入試センター等の研修会に参加し、本学の入試方法改善に役立てる。	全国大学入学者選抜研究連絡協議会に入試委員3名が参加し、大学入試の現状や各大学の改善の状況について聴講した。	今後の入試方法改善のための参考になった。この研修会に継続して参加したことで、今年は地域推薦入試実施に向けて参考になった。

次年度に向けての課題

- (1) 進路相談会相談員を未経験の専門科目の教員に経験している教員と組んで担当させ、経験者の対応を学びスキルを習得させる。
- (2) 模擬講義未経験の教員の中から次年度以降講義を担当する教員を選出し、魅力ある講義ができるよう養成を行う。
- (3) 入試制度改善に向けて担当者を決め、他大学の調査をすすめていく。

3 学生委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
4	大学生活に問題を抱える学生への対応の方向性について意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に窓口となる教員を決定。 ・学習困難なケースについて問題点を話し合い、支援の方向性を決定。 	対応困難ケースについて話合うことで、学年顧問（学生委員会メンバー）が困っていることを情報交換し、自己の担当学年への対応をふり返り、活かすことができた。
10	大学祭に向けて、指導の方向性についての話し合い。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が思いつきで出していく企画を吟味し、企画するとはどういう意味かを学習させる ・毎回の話し合いが発展的に進むように、議事録の作り方、報告の仕方について、どのように指導するか 	学生企画に対して、その目的と企画の意図をとことん話合って自己評価させる指導が必要とわかった。
1	学生のサポート体制について意見交換	現在の学年顧問2年間2名体制で良いのかについて、自分たちの学生とのかかわりをふりかえる。	<p>まずは、学生-学年顧問が抱えている問題を把握するための調査を行って行くことを決定した。</p> <p>次年度から全国大学保健管理協会に加入し、他大学の研究成果を学ぶ機会を得られるようにした。</p>
2	新入生オリエンテーションの開催に向けての初年度学生および在学生への指導の方向性について話し合い。	・歓迎する心を伝え、親睦を図るために、他者を楽しませることを相手の位置から考えさせる指導とは。新入生に無理をさせないように各在学年の能力を活かせる配置をどうするか。	<p>新入生に対して、これまで培つて来た組織力や伝統を踏襲しつつも、短時間で効率的に大学生活への導入を図るために、在学生の企画についての指導を振返ることができた。</p> <p>学生の主体性を阻害する指示的指導に気づいた教員もあった。</p>

次年度に向けての課題

(1) 看護学教育における学生主体のイベントや、サークル・自治会活動は、学生の主体性と社会性を養う重要な場であるが、それぞれの目的に照らして、学生たちが主体的に実施したいと考える内容の根拠と社会常識その他、地域のニーズ、金銭感覚等を調和的に満たして達成感を得られるように支援する必要がある。そのためには、関わる教員が成熟した社会性を高め、判断規準を持ち、かつ、学生の主体性を阻害しないように指導する力を養う必要がある。

次年度は、担当教員が、学生の主体性を引き出す支援になっていたかどうかを評価して行く必要がある。

(2) 学年顧問は、大学生活を円滑に進められない学生を早期発見し、その原因を学生とともに見つけ出して支援して行く必要がある。その支援について、1人で抱え込むことなく、支援の方法の妥当性について検討し、問題の早期発見と、問題解決能力を養う必要がある。学生委員の学年顧問でサブグループをつくり現状を把握し、学生支援にどのような能力を必要とするのかを明らかにする。

4 広報委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果と課題
4	委員会活動を開始するにあたり、大学広報の重要性を認識する。	委員に教育学術新聞の「大学力は広報力にあり」を資料として配付し、各自で精読。	委員に対し、大学広報の重要性とあり方の意識づけができた。
5-3	広報に関する提案を通して、創造力を培う。	毎月の会議の協議事項に、“私のアイデア”という項目を設け、創造力の発表の場を設けた。	一人一回は提案をしようと呼びかけたことで、毎月一つは提案がなされ広報の改善に役立った。今後も各委員が創造力を発揮できる場として“私のアイデア”を継続する。
6-3	広報紙・キャンパスガイドブックおよび学外ウェブ改善への取組みを通して、本学の教育の特徴や魅力を再認識するとともに、効果的・効率的な情報発信のあり方を学ぶ。	広報紙・キャンパスガイドブックおよび学外ウェブ改善に向けて、他大学の状況について情報収集し本学の強み（魅力）や課題などについて検討した。 また、効果的・効率的な情報発信の方法についても他大学の実践例を参考にしながら検討した。	左記の取組により本学の教育の特徴・魅力などについて各委員が再認識し、広報紙・キャンパスガイドブックおよび学外ウェブの改善に生かすことができた。
7	大学紹介DVDの作成を通して本学の魅力発信のあり方や教材作成手法を学ぶ。 広報における個人情報保護のあり方について学ぶ。	大学の魅力発信のために、ビデオ撮影し「大学概要編」と「学内実習編」DVDを作成した。 広報における学生の個人情報保護のあり方（特に写真掲載の同意取得法）について、他大学や小学校のガイドライン・運用例から学び、本学のあり方を検討した。	教員の教材作成力の向上を図ることができた。 (参考：作成した2本のDVDは進学説明会やオープンキャンパスなどで有効に活用) 各委員の個人情報の取り扱いに関する意識が向上した（参考：同意を得るためのアクションとして、学内に写真確認用掲示板を購入・設置）。今後も必要に応じて広報活動における個人情報保護のあり方・妥当性など検討する機会を設ける。
9	7月に作成した大学紹介DVD評価と課題の検討を通して、PDCAサイクルの考え方を定着させる。	大学紹介DVDの使用状況や評価を行い、今後の効果的な活用法、課題について討議した。	作成物に関して、常に「評価と修正」を行うという意識づけができた。 今後このような実践を重ねPDCAの考え方を定着することが必要。
10	公平かつ適切な（委託業者）選考を行うために必要な準備について学ぶ。	業務委託企画提案競争（企画コンペ）の実施要領・仕様書案・審査基準及び審査方法について委員会で検討した。	実施要領や審査基準の策定方法、審査方法について、その作成手順も含め学ぶことができた。
1-2	業務委託企画提案競争（企画コンペ）への参加を通して	委員全員が、審査員として業務委託企画提案競争に参加した。	2社によるプレゼンテーションに参加し、効果的な提案方法や発表資料のつくり方を学んだ。また審

	して、企画の効果的な提案方法や審査方法などを学ぶ。		査を行うことで、そのむずかしさと同時に審査基準を明確にすることの重要性を学んだ。
2-3	大学における教育情報公表のあり方を学ぶ 委員会の活動方針策定を通して、大学の現状と求められる姿、大学広報のあり方にについて学ぶ。	文科省や公立大学協会等の教育情報公表の考え方について学習を行い、本学の教育情報公開について検討した。 宮崎県の戦略的広報・広聴活動に関する方針について学習した。その後、大学の現状と求められる姿、大学広報のあり方、本学の戦略的広報活動の展開などについて検討した。	教育情報公表の考え方について学びを深めることができた。また本学の教育情報公表の改善点が明確となり、各委員会の学外ウェブ担当者にも周知し、改善に向けての動きを始めた。今後は改善する中で、さらに教育情報公表について学びを深めていく。 大学の戦略的広報活動方針策定のプロセスで、大学の現状等の理解が深まり、広報活動のあり方について意識改革をすることができた。 今後、策定した方針により、活動を進める中で、幅広い視野から大学のあり方について検討をしていく。

次年度に向けての課題

今後、策定した方針により、活動を進める中で、幅広い視野から大学の広報のあり方について検討をしていく。

5 情報委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
6	M A I S (宮崎地域インターネット協議会)年会に参加し、本学の情報基盤の確立に役立てる。	M A I S 年会に情報副委員長が出席し、外部とのインターネット接続、県内の各大学の取組など、I C T (情報通信技術)に関する協議や情報交換を行った。	情報委員会でM A I S 年会の内容を報告し、共有した。本学の情報基盤の確立に役立てている。
1	M A I S 情報交換会に参加し、本学の情報基盤の確立に役立てる。	M A I S 情報交換会に情報副委員長が出席し、協議や情報交換を行った。	情報委員会でM A I S 情報交換会の内容を報告し、共有した。本学の情報基盤の確立に役立てている。
2	情報セキュリティや個人情報保護に関して知識や情報を得る。	教職員に情報セキュリティや個人情報保護に関する e ラーニングや県主催研修等への参加を呼びかけるとともに、情報委員は主体的に参加した。25 年度は e ラーニング研修に 6 名が、県主催研修に 1 名が参加した。	情報委員は近年の間に研修会に参加し、情報セキュリティ対策の強化等に役立てている。

次年度に向けての課題

大学情報ネットワークシステムの構築や情報セキュリティ対策の強化、I C T 利活用の推進に向けて、情報委員は必要な知識・技術を積極的に得るように取り組む。

6 国際交流委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
8	若手教員 F D ① 学生プログラムに現地指導者として派遣し、海外プログラムにおける学生の様子を観察し、支援するとともに、教員自身の国際的視野を広げるきっかけとする。	チェンマイ大学交換留学プログラム（チェンマイ大学での講義・演習体験・施設見学・学生交流など）	【①②③を通した成果】 ・異文化体験が乏しく、自信のない若手教員の背中を押して、国際的視野を広げる第一歩を作る支援ができた。 ・学内・実習施設とは異なる学生の様子や学びを観察することができたのではないかと考える。
9	若手教員 F D ②	韓国異文化体験プログラム（ホームステイ・異文化体験・大学交流など）	
3	若手教員 F D ③	サンノゼ研修プログラム（ホームステイ・高校・老人ホームでの交流・異文化体験）	

次年度に向けての課題

(1) 若手教員を対象とした F D

本学教員の特徴をふまえ、現時点では、「国際交流に苦手感のある教員にも参加できる F D」の定着を目指している段階であるが、国際的視野の広がりが重要と考える空気は学内にあまりない。したがって、若手教員が自ら国際交流における F D に参加しようという状況はできていない。今はまだ、若手教員を積極的に海外へ送り出す体制と周囲の支援が必要だと考える。さらに、一般的に大学が国際化するためには、教育・研究における教員交流の活性化が必要となる。国際化・グローバル化への推進を目標に掲げる以上、短期プログラムへの参加希望者が少ない本学の現状を踏まえ、対策を検討していく必要がある。

(2) 国際交流委員を対象とした F D

- ① 学生・教職員の海外派遣に伴う危機管理の研修会に随時出席し、危機管理の知識と意識を高めてきている（平成 25 年度は出席できる日程での研修会がなかった）。他大学での取組を聞く機会を作っていく必要もある。
- ② 委員のうち 5 名は、F D を兼ね、実際にプログラム現地指導者の経験をしている。平成 25 年度は他の若手教員を派遣したため、なし。

7 研究紀要委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
6	研究集談会の開催：教員の研究・教育内容の共有・討議を通して、今後の発展につなげる	発表者：大館真晴 演題：古代人と乳（チ）-古事記・大国主 神話の考察から一 内容：古事記にみる古代日本人の「乳」（チ）に対する考え方の一端を明らかにした 内容を紹介された。	日本人の母性について、歴史的な視野から深める事につながった。
7	研究集談会	発表者：江藤敏治 演題：行動変容支援コーチング－コンプライアンスからアドヒアランスへ	
8	科研費獲得への推進	科研費チャレンジプログラム採択された事例の紹介および、科研費の応募に向けて、研究課題の焦点化と調書作成ポイントについて研修会を開催した。	20名の教員の参加があり、競争的資金を活用した研究に意欲的に取り組むための動機づけにつながった。応募は6件であった。次年度も研修会を継続し、より積極的に応募に向けての気運を高めることが課題である。
9	研究集談会	発表者：寺島久美・菅野幸子 演題：公立大学協会「高等教育改革フォーラム」に参加して（報告） 内容：今年度から発足した「公立大学施策・評価研究センター」において開催された第1回フォーラムの内容について報告された。	第2期の認証評価を受ける上で、今回の報告内容を全教員が共有し進めていく事を確認できた。
1	研究集談会	発表者：伊藤一彦 演題：自己表現としての短歌-短歌を通しての地域づくり 内容：短歌による自己表現に関わる宮崎での活動について、具体例を用いて紹介された。	各世代において自己表現の大切さを再確認できる内容であった。また、回想の持つ力や、世代による感じる力や生活する力の豊かさを学ぶことにもつながった。
3	研究集談会	発表者：江藤敏治 演題：解剖標本示説実習が看護大学生に与える影響の検討 内容：今年度より再開された実習について、内容と学生の学修成果について、現時点で整理された内容を紹介された。	この実習の学修成果が共有出来たとともに、その内容の充実に向けて、領域を超えた複数教員の参加による指導の有り様等の今後の課題も共有出来た。

次年度に向けての課題

今年度は、普遍、専門基礎の教員による発表が中心となった。

次年度は、専門の教員による発表や地域貢献事業等の成果発表を計画し、教育・研究の質保証に向けて具体的な材料をもとに討議出来る場として展開出来るよう取り組む。

8 就職対策委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
5	就職ガイダンス	(1)「進路の手引」により説明 (2)履歴書の書き方（大館先生より） (3)県立病院バスツアーオの紹介 (4)進路志望動向調査	参加した学生は熱心に聞いた。バスツアーオに12名の学生が参加した。
5	卒業生の看護実践を知る会	保健師1名、助産師1名、看護師2名の看護実践を知る。	アンケートの結果、おおむね良かったとの感想
6	委員会にて国試合格率100%に向けた対策の検討	各委員から対策案を提示して話し合い学年顧問、卒業研究担当教員に依頼	学生への連絡と学生の国試対策委員との連携がはかれた。
7 中旬 下旬	県職看護師試験模擬面接	委員で分担し、希望者10名の模擬面接を行った。	実施した学生から参考になりよかったですとの感想があった。
11 中旬	国家試験受験手続事務説明会	事務局中心で学年顧問と協働で説明した。	国試を受ける学生全員参加して手続きに必要な書類の作成をした。 35施設の医療機関から参加の申し込みがあった。
11 下旬	県内医療機関合同就職説明会の参加について医師会に依頼	昨年同様、医師会から合同説明会に参加希望される医療機関に連絡した。	
2 上旬	国試受験票配布就職活動に関するアンケート	国試受験する学生全員に配布アンケートの実施	就職先を決定するために優先したこと、迷ったり、悩んだりしたことなどについて記載された。 実施後のアンケートにより、ほとんど全員から参考になったとの評価。参加した医療機関からも好評であった。
2 下旬	3年次生就職ガイダンス 県内医療施設合同説明会	(1)就職に関する説明と3名の卒業生の体験談を聞いた。 (2)21施設のプレゼンテーションと34施設のブース（説明・相談）	

次年度に向けての課題

看護職への仕事の理解と学生の将来像を描く取組として、1年生からキャリア教育に取り組む体制づくりを進める。このため、現在行われている卒業生の看護実践を知る会、県内医療施設等の合同説明会、就職ガイダンスにおける卒業生との交流などの充実をはかる。学年顧問と協働して就職支援、国家試験合格率向上に向けた取組の強化、卒業生のUターンを支援する取組を行う。

9 附属図書館運営委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
6 ・ 1	リポジトリ開設・運用のための研修会に参加する。	リポジトリ開設・運用に必要な国立情報学研究所主催の JAIRO Cloud 説明講習会に教員 2 名（6 月）と司書 1 名（1 月）が参加し、リポジトリ開設・運用のために必要な JAIRO Cloud の取扱方法について講習を受けた。	講習会を受講することで、リポジトリ開設、運用までスムーズに行えた。また次年度運用のスキルを習得した。

次年度に向けての課題

- (1) レファレンス機能等のさらなる充実のため、人員配置の検討や関係情報の収集、研修への積極的な参加に努める。
- (2) I T を活用した図書館機能の充実として、機関リポジトリ掲載論文数の増加を図るとともに、電子ジャーナル、電子書籍の導入が検討課題であり、今後も適切な予算措置及び図書館員の能力向上を図っていく。

10 看護研究・研修センター運営委員会

月	活動目的	実施内容（概要）	成果
8～9	一般公開講座やいきいき健康茶屋などの事業の企画・運営に参加する事を通して、若手教員の研修会、事業等の企画・運営・評価の力を高める。	<p><u>事前準備</u></p> <p>①講師と事前打ち合わせを行うとともに、運営の立場で研修会の流れを描き、必要物品、資料の準備を行う。</p> <p>②評価の方法を検討し、評価アンケートを作成する。</p> <p><u>当日</u></p> <p>③机の配置、冷暖房、水分補給など参加者が学習に専念できるように環境を整える。</p> <p>④視聴覚教材が効果的に活用できるように配慮する。</p> <p>⑤研修会等が効果的に進むように、また、参加者の学習が進むように、サポートする。</p> <p>⑥企画、実施の過程を参加者の声やアンケート、観察したことをもとに評価し、記録に残し、次回に活かす。</p> <p>⑦これらの過程を通して、研修、事業等の企画・運営・評価に関わる自己の力を自己評価し、課題を見出す。</p>	事前の準備、当日の環境整備などについて、リーダーを中心に効果的になされており、若手教員の研修会、事業等の運営する力が高まっている。

次年度に向けての課題

現在は担当リーダーのリーダーシップで円滑な運営ができている。全体を見通してスタッフを動かす力をつけるために、次年度以降、リーダー役割を交代で担う方法を取り入れることが必要である。

また、⑥企画、実施の過程を参加者の声やアンケート、観察したことを元に評価し、記録に残し、次回に活かすという視点について、改善点は指摘できているが、どのように改善したら良いかの提案は少ない。改善方法まで提案できるような評価していくことが必要である。

さらに、⑦これらの過程を通して、研修、事業等の企画・運営・評価に関わる自己の力を自己評価し、課題を見出すという視点については、現在十分にできていない。これは、運営に携わることのFDとしての位置づけの理解が不十分であったためと考えられる。来年度以降、FDの目的を明確にし、主体的に企画・運営・評価に取り組めるよう、事前のオリエンテーションを十分に行っていくことが必要である。

第3節 FD活動（研究科）

看護学研究についての共通認識を育て、教員の看護学研究の活性化のために、研究集談会を開催して、学内の研究交流をはかっている。また、専門領域の教員の大学院教育の質向上の取組の一貫として、領域を超えた院生・教員が参加する研究ゼミを開催している。以下に、実施実績を示す。

平成24年度実施			平成25年度実施		
月日	発表者	参加者	月日	発表者	参加者
7月25日	2名	15名	5月28日	3名	22名
7月26日	2名	14名	6月27日	3名	20名
9月26日	1名	13名	7月31日	2名	18名
10月24日	2名	16名			

自主的に提出した大学院生の研究計画・研究素材の吟味・分析過程の検討等について討議を重ね、教員相互の研鑽を積む機会として研究指導能力を高める取組となっている。

<課題>

研究ゼミの参加教員は、これまで研究科メンバーの教授・准教授としていたが、若手教員（講師）の参加を促し、研究指導能力を高める機会とする。また、研究過程の様々な段階でのゼミを開催し、内容の充実をはかる。看護学研究の基盤となる能力を高めるための機会として、研究倫理等の研修会を今後実施する。

第4節 研究活動

1 助成金による研究活動

(1) 科研費申請と採択状況

平成21年度以降の科学研究費助成事業の申請・採択状況は次のとおりである。

年度	新規				継続	
	応募数	採択数	採択率	補助金額(千円)	件数	補助金額(千円)
21	3	1	33.3%	2,080	1	390
22	4	0	0.0%	0	1	1,300
23	6	1	16.6%	1,820	0	0
24	5	2	40.0%	2,210	1	910
25	4	1	25.0%	1,820	3	3,510

(2) 大学独自の研究活動（地域貢献等研究推進事業）

① 事業の概要

地域貢献等研究推進事業は、本学が宮崎県の看護教育、研究、研修の中核機関として、また、「地域に貢献できる人材の集団」として、さらに県民の保健・医療・福祉の向上に寄与していくため、県民、地域社会のみならず、県内の看護専門職、看護教員など広い範囲を対象として、平成23年度からスタートし

た事業で、事業の内容は次のとおりである。

事業名		事業の内容
教員企画事業 地域連携事業研究推進	県民連携事業	県民を対象に民間のNPO法人等と連携して調査・研究、看護実践等を行い県民へ研究成果を還元する。
	地域看護職等連携事業	地域の医療機関や保健師等と共同で調査・研究、看護実践等を行い地域や臨床現場に研究成果を還元する。
	官学連携事業	県福祉保健部のシンクタンクとして、県の行政課題に大学の人材を活用して調査・研究等を行う。
	地域学術研究振興事業	地域における看護の学術振興を図るために、研究者を学会に参加させる。
	教育支援・国際交流推進事業	交換留学生の派遣、受け入れや国外の看護系大学等との学術交流を行う。
	地域看護師等研究研修事業	県内の臨床現場の看護師等の研修を実施するとともに、研修プログラムの開発、講師派遣等の研修支援、院内研修の相談などを行う。
	看護研究・研修センター事業	大学の地域貢献事業を実施するとともに県民や県内医療機関との連携、情報発信などを行う窓口を強化する。

2 研究活動及び業績

平成24年度・25年度の研究業績の概要は次のとおりである(巻末資料P145～)。

	平成24年度	平成25年度
著書	2	2
学術雑誌等掲載論文	13	18
報告書その他	10	13
学会発表	26	36

普遍・専門基礎の教員による研究として、専門領域の学問的基盤や教育方法・内容に関連する研究、健康教育に関する研究、看護技術の生理学的效果に関する研究等の成果が発表されている。その内、国際学術誌掲載論文7件、国際学会発表7件が含まれている。

専門の教員による研究として、対象特性に応じた看護の質の向上をめざした研究、対象の健康度を高めるための研究、実習指導に関する研究、看護技術教育に関する研究、専門職者としての能力を高めるための継続教育（感染管理・保健師現任教育等）に関する研究、地域連携システム構築のための基盤づくりに関する研究、ナインゲール研究等の成果が発表されている。

<課題>

多岐にわたる研究活動が進められているが、その成果を可視化することへの一層の努力が必要である。それにより、研究成果の地域への還元を促進し、さらに現場の看護職者との共同研究の推進につなげることが今後の課題である。

3 宮崎県立看護大学看護学研究会の概要と実績

宮崎県立看護大学開学 10 周年記念事業の一環として、平成 19 年 9 月に宮崎県立看護大学看護学研究会が発足した。本研究会は、本学が抛ってたつ学的基盤を確認し、看護の質向上のための討議の場を持ち、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的としている。本学卒業生、修了生、教員を中心とし、現場の看護職者も含めて、120 名の会員の方々と発足した研究会であったが、平成 25 年度 9 月には 296 名の会員へと発展してきている。中心となる事業として、毎年 9 月に学術集会を開催し、その内容を会報としてまとめ、共有してきた。

学術集会では、会員の方々が現場でぶつかった問題について、具体的な看護実践をもとに提示され、参加者と討議するという形が踏襲されてきている。回を重ねる事で、発表内容が洗練され、看護実践として事実を共有し、事実に基づいた討議を深められるようになってきている。また、発表者の方々が、企画者とともに準備をすすめるプロセスを通して、自己の実践への洞察が深まり、翌年には企画に参画されるなどの好循環が生まれてきている。

平成 24 年度第 6 回学術集会では、175 名の参加があり、テーマ＜感じよう 看護の手ごたえ 発信しよう 実践の根拠＞のもと、パネルディスカッションと交流集会に加え、研究成果の発表の場としてポスターセッションが設けられ、実践と研究のつながりがより一層共有出来るようになってきた。

平成 25 年度第 7 回学術集会では、141 名の参加があり、テーマ＜問い合わせよう 実践の根拠 つなげていこう 仲間の力＞のもと、パネルディスカッション、交流集会、ポスターセッション、実践報告が行われた。パネルディスカッションでは、「実践の根拠を問い合わせ、確かめ合おう」とのテーマで、参加者全員での討議を行った。交流集会、ポスターセッションでは、様々な研究課題についての検討を行い、全体で共有した。

平成 25 年度の総会では、第 3 期役員が選出され、新たな体制がスタートした。

会員や、県内の看護職者の方々との学的交流の場として展開するためにも、今後は、学会誌の発行をめざすなど、県内の看護の質の向上に寄与する研究会として推進させていきたい。

第 5 節 社会・地域貢献活動

1 学外の研修会、講演会、学会等に関する活動

「急速な人口構造の高齢化や過疎地域という問題を抱えた本県において、看護職者及び地域のニーズに応じた取組を行い、地域に積極的に貢献し、開かれた大学を目指す」という中期目標の下、各種の研修会講師を担当したり、自治体等の政策形成のための委員会に教員が委員として積極的に参画している。

これらの学外での活動は、年度末に学外活動調査を行い集約している。

なお、平成 24 年度までの学外活動調査は、量的な集計方法であったが、教員の学外活動も多岐にわたるようになってきたことから、平成 25 年度の学外調査からは個別な活動内容や種類を把握できる調査用紙に変更し、活動内容を集約した。

(1) 平成24年度の実績

① 研修会等講師

対象	時間	延べ 教員 数	主な内容
看護職	398.1	59	<ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法を受ける患者の看護 ・リーダー保健師研修会「保健師活動を発展させる研究の方法」 ・宮崎県看護協会：看護研究研修「看護研究－基礎編－」 ・退院支援看護師養成研修 ・日向市地域包括支援センター等研修会 ・看護職者のための看護力再開発講習会「技術演習コース」 ・急性期看護セミナー等
一般住民	73.2	23	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学 講義 ・日之影町保健センター研修会「心の健康について」 ・緊急サポートネットワーク講習会「子どもの身体と心の成長発達とその過程におこる病気」 ・公開講座「ウォーキング実践－正しい姿勢と歩き方－」 ・がん予防講演会等
小中高生 親・教員	52.9	48	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎学園高等学校：模擬授業「その人の持てる力を引き出す看護」 ・宮崎県立小林高校：模擬授業「看護の仕事とその魅力」 ・宮崎県立大宮高校：性教育講話「あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～」 ・都城市立西中学校：性教育講演「輝く人になりましょう～思春期のみなさんに伝えたいこと～」 ・宮崎県国富町立八代小学校薬物予防教育「アルコールの害について」等
養護教諭 保健主事	3.5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急医療研修会 ・西都市教育委員会養護教諭合同部会「健康の法則」
看護学生 看護教員	60.7	4	<ul style="list-style-type: none"> ・都城洋香看護専門学校「保健医療論Ⅱ」 ・都城洋香看護専門学校専任教員研修会「看護教員に課せられること」等
大学院生	72	1	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎公立大学スポーツ健康科学実習
その他	44.3	28	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA地域別研修 ・中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策「子ども虐待について」 ・宮崎県社会福祉協議会研修会「健康な食生活－食物アレルギー」 ・宮崎いきいき健幸体操専門研修会等
計	704.7	165	

② 研修会等講師以外の学外活動

対象	時間	延べ 教員 数	主な内容
看護職	277. 7	37	急性期看護事例検討学習会 看護力再開発講習会（技術演習コース）「与薬と看護」の支援 看護科学研究学会宮崎例会「事例検討会」
一般住民	153. 3	20	在宅ケアシンポジウムコーディネーター 月経ヘルスケアプログラム「生理のみかた☆輝く女性へ」 子育て支援「おもちや広場」等
小中高生 親・教員	250. 2	55	進路説明会 思春期移動相談（赤江地域まちづくり推進委員会事業）等
養護教諭 保健主事	8. 8	1	日南地区小学校・中学校養護教諭研修会 「保健室における救急法」の演習指導
看護学生 看護教員	97. 5	1	タイ チェンマイ大学 国際交流委員会事業「学生短期研修プログラム」の現地指導
その他	3	1	宮崎県保育事業研究会の助言
計	790. 5	115	

③ 各種委員・役員

回数	教員数	主な内容
県内 委員 役員	274	医の倫理委員会（宮崎大学医学部）委員 宮崎市国民健康保険運営協議会委員・会長 みやざき被害者支援センター理事 宮崎県プライマリ・ケア研究会学術広報委員 宮崎県看護協会地域・在宅ケア推進委員会 九州ブロック保健師等研修会運営委員 宮崎県男女共同参画審議会委員 宮崎市民プラン評価委員 宮崎県社会教育委員 宮崎県母性衛生学会理事 平成 24 年度宮崎市高齢者福祉計画等推進協議会委員等
県外 委員 役員	68	古事記学会理事 日本感染看護学会評議員 ナイチンゲール研究学会理事 日本小児学術交流推進員 日本看護研究学会九州地区評議員等
計	342	86

(2) 平成 25 年度の活動実績

① 研修会等講師

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
障害者スポーツ指導員初級専門研修会	障害者スポーツの意義と理念	【一】
スポーツボランティアセミナー	健康づくりのための運動－介護予防運動	【一】
公益財団法人宮崎県芸術文化協会	わかりやすく、楽しい古事記	【一】
宮崎県看護協会	古代の出産－日向神話を中心に－	【一】
宮崎県タクシー協会	日向神話の魅力	【一】
宮崎県立図書館	みやざきの言の葉	【一】
宮崎市佐土原歴史資料館	郷土を学ぶ	【一】
都城市市民大学講座	日向神話と都城盆地	【一】
NPO法人都城歴史と文化のまちづくり会議	大館晴勝と都城の幕末	【一】
神話のふるさと県民大学	日向神話の魅力	【一】
明治大学・宮崎県連携講座	日向神話の舞台～朝日の直刺す・夕日の日照る国～	【一】
高等教育コンソーシアム宮崎	それぞれの日向神話	【一】
2013年度宮崎県立看護大学公開講座	予防医学へのいざない～生活力アップで病気予防	【一】
油津商店街復興支援事業講演会	あぶらつ笑店街 Dr. エトーの元気が出る健幸講演会 ①健康長寿 7か条、②ストレスとからだ、③高血圧と仲良くなろう	【一】
保育所父母の会	子どもの幸せと親の役割	【一】
MRT「サンデーラジオ大学」	思春期の心とからだ	【一】
MRT「明日が見えるラジオ」	月経ヘルスケアプログラムなど	【一】
宮崎市学術研究振興事業助成研究報告会 パネルディスカッション(パネリスト)	パネルディスカッション「布ナップキンLife 私たちの取り組み」	【一】
陶芸教室	陶芸制作	【一】
宮崎県看護協会、宮崎県国民健康保険診療施設連絡協議会	文章表現	【看】
えびの共立病院	古代の出産儀礼	【看】
基礎1 看護論研修	ナイチンゲール看護論を学ぼう	【看】
宮崎県看護協会認定看護管理者研修	人材育成論	【看】
同上(セカンドレベル)	人材を活かす看護マネジメント	【看】
慈恵医大病院エデュケーションナース研修	看護実践の倫理	【看】
慈恵医大病院看護監督者研修	看護管理過程と目標管理	【看】
感染管理スキルアップ研修	微生物概論・感染を起こしやすい微生物・エビデンスに基づく感染予防	【看】
保健指導者研修会	P D C A サイクルを回して保健指導の向上をめざす	【看】
	P D C A を回す保健指導評価について	【看】
平成25年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	看護教育課程(指定規則 カリキュラムの変遷 大学教育課程)	【看】
平成25年度認定看護管理者教育ファーストレベ	看護専門職の役割と機能	【看】

ル		
第 24 回宮崎県国保地域 医療学会	心豊かな地域医療の実践を目指して～スキ ルアップ～	【看】
平成 25 年度公開研修「実 習指導者研修」	よりよい実習効果をあげるために	【看】
宮崎県看護協会	ナイチングール看護論	【看】
宮崎県看護協会実習指導 者養成講習	看護過程（ナイチングール）	【看】
宮崎県病院局 2 年目研修	看護過程	【看】
宮崎県立延岡病院リエゾ ン看護	対象のとらえ方	【看】
ハートランド信貴山看護 専門学校	精神科看護について	【看】
インドネシア看護師のた めの看護セミナー	看護の自己評価・高齢者の精神看護	【看】
日本精神科看護技術協会 宮崎県支部研修会	精神科におけるコミュニケーションの原理	【看】
野崎病院看護部研修会	看護研究の基礎	【看】
宮崎県立病院等局看護職 員研修会	基礎コース II 「看護過程」	【看】
訪問看護研修 S T E P 1	訪問看護の役割・機能・特性	【看】
平成 25 年県立病院等看 護職員研修専門領域コー ス「摂食・嚥下障害看護」	家族看護の理解	【看】
平成 25 年県立病院等看 護職員研修専門領域コー ス「摂食・嚥下障害看護」	在宅療養支援	【看】
中堅保健師研修 I	地域の健康課題をどう見出す？～地域診断 に取り組もう	【看】
リーダー保健師研修	保健師活動を発展させる研究の方法	【看】
保健師の力育成事業（新 任保健師研修 I ）	保健師活動の今後の取り組みに向けて一ア クションプランの実際を学ぶ	【看】
保健師の力育成事業（新 任保健師研修 I ）	面接技術	【看】
保健師の力育成事業（中 堅保健師研修 I ）	P D C A サイクルと保健師活動評価	【看】
保健師の力育成事業（中 堅保健師研修 I II ）、保 健師職能集会	今の、これから保健師活動を語り合おう	【看】
保健師の力育成事業（リ ーダー保健師研修）	文献検索の意義と検索の方法 後輩の力を引き出すために一 P D C A サイ クルと保健師活動評価・アクションプランの 指導方法一	【看】
准看護師交流会	はじめての小論文	【看】
日本母子看護学会	母親を笑顔にする力	【看】
夜間小児救急電話相談	一	【看】
助産師の仕事研究会	母乳育児支援の基本	【看】
宮崎県実習指導者講演会	助産師課程について	【看】
宮崎県看護協会：看護研 究研修	看護研究一基礎編一	【看】
若草病院内現任教育研修	実習指導	【看】
県立病院等看護職員研修	基礎コース II 「看護過程」	【看】
看護力再開発講習会（技 術演習コース）	移動の動作の援助	【看】
宮崎県看護協会研修	感染管理「基礎編」	【看】
宮崎県看護協会研修	組織で取り組む感染管理「実践編」	【看】
記紀みらい塾	木花に伝わる神話	【学】
宮崎県教育職員免許法認 定講習	公衆衛生学	【学】
宮崎県養護教諭研究会研 修会	こころの病の見つめ方	【学】

日南地区小中学校養護教諭研修会	保健室における救急法	【学】
学校保健委員会	健康の法則	【学】
宮崎市保健主事部会研修会	笑顔輝く子ども達のために	【学】
三股町立三股中学校：月経ヘルスケアプログラム出前講座	生理のみかた☆輝く女性へ	【学】
月経ヘルスケアプログラム公開講座（都城、宮崎）	生理のみかた☆輝く女性へ	【学】
串間市立北方中学校：学校保健委員会講師	思春期のこころとからだ	【学】
宮崎県立宮崎北高校、宮崎大宮高校、福島高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】
宮崎県高等学校教育研究会養護部会都城地区会	月経ヘルスケアプログラムについて	【学】
宮崎市立宮崎東中学校	思春期のこころとからだ～命～	【学】
日南市立酒谷中学校、都城泉ヶ丘高校附属中学校：性に関する教育講演	輝く未来にむけて～思春期の心とからだ～	【学】
日南市小・中学校養護教諭研修会	救急処置	【学】
出前講座（三股中学校）	月経ヘルスケアプログラム	【学】
酒谷中学校、油津中学校、日章学園中学校、生目南中学校、吾田中学校、あおき中学校思春期保健教室	禁煙は愛です あなたにできること	【学】
富島高校、宮崎日大高校、日南振徳高校エイズ予防特別講義	高校生に必要なエイズ予防対策	【学】
2013年度摂南大学薬学部公開講座	地域医療における薬剤師の役割～服薬指導から服薬支援へ	【他】
2013年度島電工安全衛生大会	作業現場における暑熱環境対策	【他】
平成25年度宮崎県医師会産業医研修会 基礎研修	産業現場における健康保持増進	【他】
平成25年度労働安全衛生コンサルタント九州大会	企業における受動喫煙防止対策	【他】
産業医養成講座	産業医に必要な労働衛生法規の知識	【他】
	メンタルヘルス不調の労働者の事例検討	【他】
	職場における喫煙対策・分煙対策	【他】
幹部職員研修	想像力が人生を創造する	【他】
宮崎県ペアレントトレーナー養成講座：子どもの発達と保護者支援に関する講話	家族の大切さ～家族により育まれる自己肯定感～	【他】
国際看護論	JICAでの助産師活動を通して	【他】
宮崎タクシー	日向神話の舞台	【他】
宮崎県私学教育振興会	教材としての日向神話	【他】
宮崎県農業土木耕友会	古代の土木事業にみる思想	【他】
日経懇話会	日向神話と宮崎の神楽	【他】
ヨーガ療法学会	妊婦とヨーガ：その効果と現代女性にとっての意味	【一】 【看】
月経ヘルスケアプログラム公開講座（日南、宮崎）	生理のみかた☆輝く女性へ	【一】 【学】
ロコモティブ研修会	ロコモティブシンドロームって何？	【一】 【施】
幸せホームあすか一周年	ともに生きる	【一】

記念講演会		【施】
宮崎県農林年金受給者連盟小林支部例会 基調講演	生活習慣病の予防と克服～元気あふれる病気との付き合い方	【一】 【他】
平成25年度九州結核予防婦人部研修会	禁煙は愛です～笑顔で禁煙・しあわせ応援	【一】 【他】
平成25年度宮崎県水土里ネット幹部研修会	生活習慣病の予防と克服～元気あふれる病気との付き合い方	【一】 【他】
宮崎県農林年金受給者連盟日向支部例会 基調講演	生活習慣病の予防と克服～元気あふれる病気との付き合い方	【一】 【他】
平成25年度 宮崎県安全衛生大会基調講演	人が元気、企業が元気	【一】 【他】
M L B A 研究会	学部教育の新たな展開 仕事の意義を求めて	【一】 【他】
平成25年度宮崎県青果市場連合会 役職員研修会	青果市場特有の関連疾患の予防と悪化防止	【一】 【他】
平成25年度陸上自衛隊都城駐屯所安全衛生大会	転出入者のストレス対策、復職支援について	【一】 【他】
平成25年度JA宮崎中央婦人部会総会	Dr.エトーの元気が出る健幸講演会～健幸長寿7ヶ条	【一】 【他】
平成25年度JA宮崎中央佐土原婦人部会総会	Dr.エトーの元気が出る健幸講演会～健幸長寿7ヶ条	【一】 【他】
第46回宮崎県農林年金受給者連盟通常総会 基調講演	生活習慣病の予防と克服～元気あふれる病気との付き合い方	【一】 【他】
健幸体操専門研修会	健幸体操	【看】 【施】
門川町学校保健委員会保健学習会	児童生徒の自尊感情を高めるために	【学】 【他】
宮崎県立宮崎南高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】 【他】
三股町立三股中学校：性に関する教育講演	輝く人になりましょう－思春期の心とからだ－	【学】 【他】
日向市学校保健大会	あなた、そして私を大切にすること	【学】 【他】
日南市立東郷小中学校：学校保健委員会 教育講演	かけがえのない大切な命～思春期の心とからだ～	【学】 【他】
西都市立三財小中学校、串間市立福島中学校、立志式講演会	輝く未来にむけて～思春期の心とからだ～	【学】 【他】
第3回あかえ子育てフェスティバル	～生理のみかた☆輝く女性へ～	【一】 【学】 【他】
精神疾患及び障がいを理解する市民講座	精神疾患の理解と地域生活を支える AtoZ	【一】 【施】 【他】
都城市自殺予防講演会 「ささえあうこころといのち」	気づこう心と体のサイン、ストレスケアで心地よい人生を送ろう	【一】 【看】 【学】 【施】
2014小林自殺予防フォーラム ～命を守る1000人の集い	地域職場家族で取り組む自殺予防「幸せに生きる」	【一】 【看】 【学】 【施】
公開講座（あかえ子育てフェスタ）	月経ヘルスケアプログラム	【一】

対象区分：【一】一般 【看】看護職者 【学】小中高等学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

② 研修会等における講師以外の活動

研修会・講座等の名称	役割
看護科学研究学会 事例検討会	【ファ】
県立日南病院 院内事例検討会	【助】
善仁会・市民の森病院 事例検討会	【助】
看護科学研究学会 看護管理研修	【助】
宮崎県看護協会認定看護管理者研修	【助】
第4回九州在宅医療推進フォーラム	【運営】
日本労働安全衛生コンサルタント会九州・沖縄ブロック会議 in 宮崎	【司】 【ファ】 【運営】
第5回宮崎県民医学フォーラム	【司】 【ファ】 【運営】
平成25年 宮崎キュアケアネットワーク 市民参加型フォーラム	【ファ】 【運営】 【他】
産業医養成講座	【司】 【ファ】 【運営】
保健指導者研修会	【助】
平成25年度看護職者のための看護力再開発講習会(技術演習コース)	【他】
平成25年度感染管理スキルアップ研修会	【運責】 【司】 【ファ】
平成25年度宮崎県立看護大学感染管理 スキルアップ研修会 出前講座(延岡、日南、都農)	【運責】 【司】 【ファ】
看護科学学会 学術集会	【司】 【運営】
宮崎県内の医療機関に勤務する看護職者の看護実践能力向上のための実践・研究支援事業	【助】
日南病院：事例検討会	
看護科学研究学会宮崎研修会	【司】 【運営】
看護科学研究学会宮崎例会	【助】 【運営】
宮崎県病院	【他】
都城市郡医師会病院	【助】
延岡病院リエゾン看護グループ事例検討会	【助】
看護科学研究学会事例検討会(岐阜、春日井、東北、宮崎)	【助】 【ファ】
野崎病院、井上病院 事例検討会	【助】
准看護師研修・交流会「准看護師から看護師へのステップー進学支援と小論文作成の実際」	【ファ】
保健師職能研修会「中堅保健師としての役割～コンサルテーション事業を受講して見えてきたこと」	【助】
宮崎県保健師現任教育推進研修会	【司】
保健師の力育成事業(新任保健師研修Ⅰ・Ⅱ、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱ、リーダー保健師研修)	【司】 【助】 【運営】
保健師職能研修会グループワーク	【司】 【運営】
日本母乳の会ワークショップ	【司】 【助】 【ファ】
B F H 病院審査	【運営】
子育てフェスタ	【運営】
助産師の仕事研究会研修会	【司】 【助】 【運営】
全国助産師教育協議会単発研修会	【運営】
宮崎県助産師会新人研修会	【ファ】 【運営】
日本小児看護学会第23回学術集会 口演	【司】
日本小児がん看護学会第11回学術集会 口演	【司】
宮崎県看護研究学会 口演	【司】

県立宮崎病院 看護部事例検討会	【助】
宮崎県立看護大学急性期看護セミナー (急性期領域における家族看護、フィジカルアセスメントと緩和ケアに焦点をあてて)	【司】 【運営】
宮崎県急性期看護事例検討・学習会	【司】 【助】 【ファ】 【運営】
平和台病院事例検討会	【他】
宮崎いきいき健幸体操専門研修会	【助】
アレルギー講演会	【司】 【運営】
療育センターの事例検討会	【他】
子育て講演会	【他】
看護協会の研修運営	【司】 【運営】
シンポジウム へんけん・じんけん・にんげん	【司】
自主上映会「むかし Matto の町があつた」	【助】 【運営】
ガン予防に関する講演会	【運営】
木脇中学校 健康教育	【司】
日向市高齢者クラブ	【司】
看護力再開発講習会	【ファ】 【運営】
翼の会講演会	【運営】
日本感染管理ネットワーク地方会（九州）	【ファ】
宮崎県立看護大学 公開講座 生活に密着した感染予防対策	【司】 【運営】

【助】助言者 【ファ】ファシリテーター 【運責】運営責任者 【運営】運営スタッフ
【司】司会者 【他】その他

③ グループ組織や団体等の支援

グループ組織、団体の名称	内容
アミノバリューランニングクラブ	ランニング指導
宮崎・翼の会（がん患者・家族の会）	例会支援
宮崎生協病院・院内研究会議	院内研究計画への助言
障がい者就労継続支援（B型） フラワーパークのぞみ工房	職業指導員・生活支援員に対する精神障がい者の見つけ方やかかわり方の学習支援
日南市地域包括支援センター保健師等の学習会	地域診断ほか
赤江まちづくり推進員会	イキイキ健康茶屋（介護予防）
助産師の仕事研究会の主催	研修会・交流会
赤江地域まちづくり推進委員会 健康・福祉部会	思春期移動相談 アドバイザー
宮崎県・みやざき子育て応援フェスティバル	子育て支援（おもちゃ広場）
県立看護大学 センター事業	子育て支援（おもちゃ広場）
清武児童文化センター	子育て支援（おもちゃ広場）
キャンサーヘルプネット宮崎	県民対象のがん予防研修会開催の支援
グットトイみやざき	おもちゃを通した子育て支援グループ
精神障がい者自立支援ネットワーク・宮崎	精神医療を考える会
若草病院デイケア	デイケアメンバーへの支援
宮崎市 宮崎いきいき健幸体操 DVD撮影	監修、説明音声収録
宮崎ケーブルテレビ 宮崎いきいき健幸体操番組制作	監修

④ 研究支援

自治体・企業等との共同研究(共同研究・委託研究)

共同した自治体・企業名	研究テーマ
日南市	日南市中心市街地活性化について
都城市	都城市豊かな超高齢社会まちづくり戦略プラン
宮崎県	宮崎県エイズ予防キャンペーン
小林市	小林自殺予防対策
都城市	都城自殺予防対策
日本母乳の会	乳房・乳頭ケアの実態と必要性
宮崎市長寿支援課	「宮崎いきいき健幸体操」に関する連絡協議会
延岡保健所	感染管理に関する実践能力の向上を目指した出前方式体験型研修の有用性と看護師による感染管理ネットワークへのニーズ調査

看護研究指導

グループ組織、団体の名称
県立日南病院 脳外科病棟
日南病院看護師自治会看護研究 コンサルテーション
都城市郡医師会病院
野崎病院
宮崎生協病院
谷口病院
新生病院
藤元病院
宮崎精神医療センター
県立こども療育センター

⑤ 進路相談会・進学説明会および模擬講義

	従事職員延数	従事延回数
進路相談会	54	24
進学説明会	8	3
模擬講義	12	11

⑥ 非常勤講師等

学校名
聖マリア学院大学大学院
梅花女子大学
宮崎公立大学
国立大学法人宮崎大学
ICHメディカルセンタービンタロー看護大学
放送大学
宮崎医療福祉専門学校
宮崎保健福祉専門学校
藤元メディカルシステム付属医療専門学校

⑦ 各種委員

県内委員

役職名	会の名称
顧問	宮崎県障害者スポーツ協会 全国保健協会宮崎支部
会長	健康支援友の会 宮崎県国民健康保険運営協議会連絡会 宮崎県男女共同参画審議会 宮崎県後期高齢者医療広域連合運営懇話会
副会長	公益社団法人宮崎県看護協会 公益社団法人宮崎県看護協会新任看護職員研修推進協議会
会計監査	宮崎地域インターネット協議会
副理事長	一般財団法人宮崎陸上競技協会 青島太平洋マラソン実行委員会 延岡西日本マラソン実行委員会 宮崎県医師会産業医部会
理事	日本労働安全衛生コンサルタント会宮崎支部会 宮崎県母性衛生学会 宮崎県助産師会 宮崎県立看護大学看護学研究会
監事	宮崎県立看護大学看護学研究会
幹事長	禁煙ピアサポートINみやざき
幹事	宮崎西高宮崎県医師の会 九州小児看護教育研究会
委員長	宮崎市国保運営協議会委員 宮崎県保健師現任教育マニュアル検討会
委員	医の倫理委員会（宮崎大学医学部） みやざきの神楽魅力発信委員会 日本精神科看護技術協会 宮崎市上下水道事業経営審議会 宮崎大学病院 治験審査委員会 宮崎東諸県地域職域連携推進協議会 宮崎県看護協会学会委員会 宮崎県開発審査会 宮崎市高齢福者福祉計画等推進協議会 宮崎県プライマリケア研究会 中央保健所運営連絡協議会 高鍋保健所運営連絡協議会 地域・在宅ケア推進委員会 宮崎県立看護大学看護学研究会第7回学術集会 宮崎県国民健康保険審査会 宮崎県訪問看護推進協議会 日本看護学会・看護管理・学術集会準備委員会 宮崎市保健所運営協議会 宮崎県社会教育委員会 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園評議会 宮崎県助産師会 教育委員会 宮崎県看護協会 実習指導者講習会検討委員会 宮崎県看護協会教育委員 県立看護大学同窓会
評議員	公益財団法人宮崎県体育協会
相談員	宮崎県看護協会 まちの保健室
アドバイザー	宮崎県記紀編さん1300年記念事業企画運営委員会 都城島津発祥まつり実行委員会
チユーター	看護科学研究学会宮崎例会
会計	宮崎県立看護大学同窓会
各種選考委員	非公開

県外委員

役職名	名称
副会長	看護科学研究学会
理事	九州陸上競技協会
	日本スプリント学会
	古事記学会
	看護科学研究学会
	ナイチンゲール看護学会
	看護科学研究学会
	日本母子看護学会
	日本母乳の会
委員	公益財団法人日本陸上競技連盟
	(社) 大学英語教育学会 (JACET)
	外国語メディア教育学会 (LET)
	全国大学国語国文学学会
	風土記研究会
	第45回日本看護学会看護管理
	日本看護科学学会 学術用語検討委員会
	文部科学省大学設置分科会
	日本母乳シンポジウム 準備委員会
	全国助産師教育協議会 生涯教育研修委員会
	日本助産学会第28回学術集会
	日本小児看護学会 倫理委員会
	ナイチンゲール研究学会
	日本救急医学会九州地方会雑誌編集委員会
評議員	一般社団法人日本看護研究学会
	日本感染看護学会
第3期MOS T フェロー	京都大学高等教育研究開発推進センター M O S T フェロー プログラム

2 実施状況と成果、課題

平成24年度は、研修会等講師の従事時間約705時間（非常勤講師含）、講師以外の活動は約791時間であった。平成25年度より、集計方法を変更し、実態の把握に努めた。平成25年度の研修会等講師の総従事時間は約380時間（非常勤講師を除く）、受講者総数は約6000人（マスメディアを介するものを除く）であった。また、講師以外としても学会座長、研修会司会・進行、ファシリテーター・助言者、運営スタッフなどとして活動した。これらの総従事時間は約690時間、対象となる研修会や講座等の受講者総数は約7500人（マスメディアを介するものを除く）であった。その他、グループ団体支援、研究支援、模擬講師、非常勤講師、各種委員等に活動を行っている。

各方面で、社会・地域貢献活動を行っているが、今後さらに地域のニーズに応じた対応を行っていく必要がある。

第4章 社会貢献

第1節 公開講座

平成 24 年度、25 年度に開催した公開講座は以下のとおりである。

平成 24 年度、25 年度公開講座後のアンケートでは、内容の「分かり易さ」「面白さ」「生活に役立つか」のいずれの項目も約9割の受講者が良好な評価であった。平成 24 年度は、参加者の多くが大学周辺の住民であり、少数の募集定員制を設けたり、本学教員のみで実施するなど、広く住民の関心や学習ニーズを高める開催方法が課題であった。平成 25 年度からは、県立図書館での開催や著名な講師の招聘、県事業との連携など利便性や多様な学習ニーズに対応できるよう改善を図った。その結果、参加人数が平成 24 年度 114 名から平成 25 年度 430 名に増加した。

平成 24 年度

<夏講座>

会場 宮崎県立看護大学

回	開催日・時間	テーマ	講 師	参加人数
1	7月18日(水) 19:00-21:00	ウォーキング実践 -正しい姿勢と歩き方-	串間 敦郎 (宮崎県立看護大学 教授)	12名
2	7月30日(月) 10:00-13:00	夏の薬膳 (講話と調理実習)	菅野 幸子 (宮崎県立看護大学 教授)	15名
3	8月11日(土) 13:30-15:30	わたしの「器」	Eric E. Larson (宮崎県立看護大学 准教授) 伊藤 五恵 (現代陶芸家)	13名
4	8月20日(月) 15:00-16:30	快適な眠りのために	長坂 猛 (宮崎県立看護大学 准教授) 田中美智子 (福岡県立大学 教授)	25名

<秋講座>

会場 宮崎県立看護大学

回	開催日・時間	テーマ	講 師	参加人数
1	8月29日(水) 14:00-16:00	短歌を楽しむ I (講話)	伊藤 一彦 (宮崎県立看護大学 客員教授)	14名
2	9月5日(水) 14:00-16:00	古事記を学ぶ I	大館 真晴 (宮崎県立看護大学 准教授)	12名
3	9月12日(水) 14:00-16:00	短歌を楽しむ II (実作、鑑賞)	伊藤 一彦 (宮崎県立看護大学 客員教授)	12名
4	9月19日(水) 14:00-16:00	古事記を学ぶ II	大館 真晴 (宮崎県立看護大学 准教授)	11名
5	9月26日(水) 14:00-16:00	短歌を楽しむ III (実作、鑑賞)	伊藤 一彦 (宮崎県立看護大学 客員教授)	6名

平成 25 年度

<夏講座>

会場 宮崎県立看護大学

回	開催日・時間	テーマ	講 師	参加人数
1	8月2日(金) 14:00-15:30	予防医学へのいざない -生活力アップで 病気予防! -	江藤 敏治 (宮崎県立看護大学 教授)	50名
2	8月22日(木) 10:00-12:00	地域の中で子どもを育む-子どもの育ちと子育て支援-	花野 典子 (宮崎県立看護大学 教授)	12名
3	8月26日(月) 13:30-15:30	わたしの「器」	Eric E. Larson (宮崎県立看護大学 准教授) 伊藤 五恵 (現代陶芸家)	8名
4	8月29日(木) 10:00-12:00	地域の中で子どもを育む -子ども虐待防止のための子育て支援を考える-	花野 典子 (宮崎県立看護大学 教授)	5名
5	9月5日(木) 15:00-16:30	生活に密着した 感染予防対策	武田 千穂 (宮崎県立看護大学 助手 感染管理認定看護師) 勝野絵梨奈 (同大 助教)	5名

<秋講座>

-置県 130 年記念公開講座 - 宮崎の文化に親しむ

会場: 宮崎県立図書館

回	開催日・時間	テーマ	講 師	参加人数
1	8月31日(土) 14:00-15:30	宮崎の生んだ光と影の歌人-若山牧水と小野葉桜-	伊藤 一彦 (宮崎県立図書館名誉館長 宮崎県立看護大学 客員教授)	50名
2	9月7日(土) 14:00-15:30	記紀を学ぶ人のために -宮崎県立図書館の蔵書 を利用して-	大館 真晴 (宮崎県立看護大学 准教授)	50名
3	9月14日(土) 14:00-15:30	名作の舞台となった宮崎 -宮崎を訪れ愛した人びと-	伊藤 一彦 (宮崎県立図書館名誉館長 宮崎県立看護大学 客員教授)	50名
4	9月21日(土) 14:00-15:30	古事記になぜ日向神話 が記されたのか	大館 真晴 (宮崎県立看護大学 准教授)	50名
特別 講演	10月26日(土) 14:00-15:30	【基調講演】 神話と歴史-信じることと 学ぶこと- 【対談】 旅の始まりは宮崎から -古代文学の西と東と-	上野 誠 (奈良大学 教授) 上野 誠、伊藤 一彦、 大館 真晴	150名

第5章 学内委員会の活動

1 教務委員会	P69 - P74
2 入試委員会	P75 - P76
3 学生委員会	P77 - P78
4 広報委員会	P79 - P83
5 情報委員会	P84 - P85
6 国際交流委員会	P86
7 研究紀要委員会	P87
8 就職対策委員会	P88 - P89
9 付属図書館運営委員会	P90
10 看護研究・研修センター運営委員会	P91 - P92
11 危機管理対策委員会感染症専門部会	P93

委員会名	教務委員会
所掌事項	<p>(1) 教育課程の編成の基本事項について (2) 授業科目の履修に係る連絡調整について (3) 単位制について (4) 学業成績の評価について (5) 卒業認定の制度について (6) その他教務に関する重要事項について</p>
活動内容	<p>平成 24 年度、平成 25 年度の主な協議事項 (1) 学生の修学指導に関する事項 (2) カリキュラムに関する事項 (3) 授業科目に関する事項 (4) 授業日・時間割の調整に関する事項 (5) 成績に関する事項 (6) 教育の質の保証・改善に関する事項 (7) 危機管理対策に関する事項 (8) 教員の F Dに関する事項 (9) 教育情報の公表・教務委員会関連の H P の充実に関する事項 (10) 他委員会との連携</p> <p style="text-align: right;">平成 24 年度、平成 25 年度の協議・報告事項の詳細 (別添資料 P72-P74)</p>
成果と課題	<p>平成 24 年度及び平成 25 年度の成果</p> <p>(1) 学生の修学指導に関する事項</p> <p>1) 教科別ガイダンスの企画・運営 効果的な教科別ガイダンスに向けて委員会で内容を検討し、ガイダンス後に評価を行い、次年度の改善点を明らかにした。特に新旧カリキュラム移行期であり、学生に不利益が生じないように学年顧問、該当科目責任者と連携して個別に対応した。</p> <p>2) 履修登録の点検 セメスターごとに履修登録状況を整理、点検した。</p> <p>3) 学生便覧、シラバスの編集・整備 ・新旧カリキュラムの進行に伴う混乱を回避するため、教務委員会メンバーでダブル・トリプルチェックを行なうと共に、学生便覧を別冊子として学生・教員に配付し周知徹底をはかった。 ・平成 26 年度学生便覧の個人情報の取り扱い項目に、新たに学生の修学支援及び学外実習施設との調整に関する記述を追加した。 ・大学設置基準に基づく学生の主体的学修を支援し単位の実質化を満たすシラバスの作成について各部会を通して周知を行ない、新年度のシラバス作成に反映させた。</p> <p>(2) カリキュラムに関する事項</p> <p>1) 第 2 外国語の履修方針を協議し、卒業要件単位に含まれることを確認して履修方法の学則別表に明記した。</p> <p>2) カリキュラム改編に伴う地域看護学・成人看護方法関連科目について、旧カリキュラム学生への対応について協議した。</p> <p>3) 新カリキュラムにおける保健師課程及び助産師課程の選考時期・選考方法等を平成 26 年度学生便覧に整理した。</p> <p>4) 進級制度について 2 年にわたって継続審議を行ない、平成 26 年度からの実施に向けて履修規程の改正、進級判定及び臨地実習履修要件（内規）の制定を決定した。</p> <p>5) 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明文化して教授会で諮り、学生便覧等に掲載した。</p> <p>(3) 授業科目に関する事項</p> <p>1) 「人間常態学実習」での宮崎大学医学部における解剖学標本示説実習について協議を行ない、人体構造の知識を学ぶと共に生命への尊厳・人間への尊厳を学ぶ目的を確認し、実施の運びとなった。</p> <p>2) 教員の退職に伴う科目責任教員の調整について、検討グループを立ち上げ 10 科目の教員の調整を行なった。</p>

	<p>3) 卒業研究について</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究のガイダンス内容と方法の工夫（ガイダンス時にカリキュラムにおける卒業研究の位置づけと学修目標、教員の指導事例紹介の実施）により、学生が普遍・専門基礎・専門に渡る広い視野で研究テーマを設定できるようになった。 卒業研究の保管・閲覧方法について、情報委員会及び附属図書管運営委員会との協議により、附属図書館での保管と電子データでの保存のシステムが完成し、平成26年度より実働を開始。同時に卒業研究の学生によるテーマ入力システムを構築した。 <p>4) 他大学との単位互換の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等教育コンソーシアムコーディネート科目及び単位互換科目について調整を行なった。 放送大学が開設している「初步のスペイン語（2単位）」を1名の学生が履修した。 <p>(4) 授業日・時間割に関する事項</p> <p>1) 進級制度の導入に合わせて、平成26年度に向けて単位の実質化に即した授業日程（15回+試験等及び予備日を組み込んだ）を決定した。</p> <p>(5) 成績に関する事項</p> <p>1) セメスターごとに年次別成績一覧表を作成し、委員会で共有、単位修得に問題を抱える学生を早期に把握した。部会ごとに各教科目への学生の参加状況を把握して随時委員会で共有、該当科目責任教員および学年顧問と教務委員会で協議し、連携体制を強化して学生の個別指導につなげた。</p> <p>2) 個別指導のデータとなる成績表について、保護者とも共有して学修支援を得られるよう、保護者への送付を検討し実施した。</p> <p>3) 成績処理予定計画を作成し、成績処理を行なった。</p> <p>(6) 教育の質の保証・改善に関すること</p> <p>1) 教員による授業実績報告をとりまとめ、教務委員会で把握するとともに学内Webを通して学内の全教員で共有した。</p> <p>2) 学生による授業評価アンケートをとりまとめ、教務委員会で把握するとともに学内Webを通して学内の全教員で共有した。</p> <p>3) 学生による授業評価アンケートの回収率改善に向けた試みを行なった。</p> <p>4) 各部会での教育情報の共有を行なった。</p> <p>5) 卒業時の到達目標を見据えた学生の看護技術の修得状況に応じた個別指導の強化に向けた看護部会メンバーによる看護技術ワーキングの継続実施。新カリキュラムで新たに開設する科目「看護技術スキルアップ演習」の継続検討が行なわれた。</p> <p>(7) 危機管理対策に関する事項</p> <p>1) 「臨地実習における医療事故防止マニュアル」について協議し、該当年度より活用を開始した。</p> <p>2) 学内の授業中の事故等を想定した危機管理マニュアルについて協議した。</p> <p>3) 台風接近、計画停電等への対応を行なった。</p> <p>(8) 教員FDに関する事項</p> <p>1) 「人間常態学実習」での宮崎大学医学部における解剖学標本示説実習の事前研修としての教員FD企画案について協議し承認した。</p> <p>2) 学部長より提示された「FDの基本的考え方」を前提として若手看護教員のFD計画が看護部会で検討された。実習指導者について、「臨地実習指導に関するFD活性化チーム員」が中心となって領域単位で学習会が開催された。</p> <p>(9) 教育情報の公表・教務委員会関連のHPの充実に関する事項</p> <p>1) 学外ホームページの内容について確認し、追加・修正を行った。また、授業内容について学外者により伝わりやすい体裁になるよう広報委員会に依頼した。</p>
--	--

	<p>(10) 他委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試委員会：教務情報の提供 ・学生委員会：学生の修学指導、相談体制の検討 ・情報委員会・図書館運営委員会：卒業研究の閲覧、保管システムの協同作成 <p>課題</p> <p>平成 24 年度より新カリキュラム体制がスタートし、新旧カリキュラムの移行を進めつつ平成 27 年度に完成年度を迎える。並行して平成 25 年度は、教育課程の編成・実施方針、学位授与方針の明文化を行ない、平成 26 年度からの進級制度の導入を決定した。それらの新たな取組を軌道に乗せながら、教育課程の編成・実施方針、学位授与方針に則した人材の育成に向けて、教育システムの改革、カリキュラム改編、教員個々の教育の質保証・改善へのさらなる取組を推進していく必要がある。その際、学生の到達度に基づく教員による自己点検・評価が要となるが、教育の質保証・改善に向けた P D C A サイクルを組織的・有機的に運用していくことが課題である。また、その取組において、根拠資料の収集・分析が重要であるが、教務委員会が所掌する役割と情報は多岐にわたるため、教育に関する情報を適切に効率よく収集・管理し、活用するためのシステムの構築も今後の課題である。</p>
今後の取組	<p>平成 26 年 3 月、本学において「大学改革実行プラン（文部科学省）」及び「宮崎県長期ビジョン」等をもとに、本学の将来像を見据えた大学改革の方向性が示された。その中で提示された教育の質保証に関する方向性に基づき以下の課題に取り組み、本学における＜教育の内部質保証システム＞の実質化とさらなる教育の質の向上をめざす。</p> <p>(1) 平成 29 年度からの新たなカリキュラム体制をめざしたカリキュラム改編</p> <p>カリキュラム検討ワーキンググループを立ち上げ、教育課程の編成・実施方針、学位授与方針に基づく現行の教育評価・分析、学生・卒業生の教育満足度調査、それらをもとにカリキュラムの改編、授業実績評価内容・方法の見直し等を行なう。</p> <p>(2) 教育システムの改善</p> <p>教育システム改善ワーキンググループを立ち上げ、学生による授業評価アンケートの内容・方法の改善、シラバスの検討、G P A 導入の検討等を進める。</p> <p>学生による授業評価アンケート、教員の自己点検・評価、授業改善という流れをシステムとして連動させる。</p> <p>(3) 平成 26 年度より新設した進級制度の実施状況のモニタリングと評価・改善</p> <p>(4) 看護部会検討事項の「看護技術ポートフォリオ」の整備と連動して平成 27 年度から専門領域全体にわたる正課科目「看護技術スキルアップ演習」の検討。</p> <p>(5) 普遍部会、専門基礎部会、看護部会の定期的な実施と各部会の教務委員会との連動は軌道に乗ってきている。今後、普遍科目、専門基礎科目、専門科目において学位授与方針の達成を目指したさらなる教育内容・方法の工夫と教育情報の積極的な共有が行なわれるよう検討を行なう。</p>

(別添資料)

	開催日時	協議・報告内容
平成24年度の主な協議・報告事項	第1回： 4月6 日(金)	1) 平成23年度後期成績について 2) 平成24年度教科別ガイダンスの評価について 3) 新カリキュラムに係る学内ホームページについて 4) 中期目標 平成24年度中期計画について 5) 平成24年度卒業研究に係る指導可能なテーマ（普遍・専門基礎）について
	第2回： 4月27 日(月)	1) 平成24年度卒業研究について 2) 既修得単位認定について 3) 特別欠席について 4) 第2外国語の履修について 第2外国語の履修方針について協議を行った。 5) カリキュラム改編に伴う授業科目の変更点について 地域看護学関連科目における新旧カリキュラムの読み替え表により旧カリキュラム学生への対応について協議を行なった。 6) 平成24年度履修登録状況について 7) 平成23年度後期授業評価アンケート結果について 8) 平成23年度後期授業実績報告について
	第3回： 6月4 日(月)	1) 第2外国語の履修について 第2外国語の取得単位が卒業要件単位であることを再確認し、履修方法（案）の学則別表への明記について教授会へ諮った。 2) 特別講師の招へいについて
	第4回： 7月2 日(月)	1) 平成24年度前期成績処理予定表（案）について 2) 平成24年度授業実績報告（案）について 3) 計画停電時における対応について
	第5回： 9月3 日(月)	1) 平成24年度前期授業実績報告様式について 2) 平成25年度実習施設の選定について 3) 平成25年度開講科目について 4) 中期目標・中期計画 5) 平成24年度前期授業評価アンケートについて
	第6回： 10月1 日(月)	1) 平成25年度臨地実習計画について 2) 平成25年度学年暦について 授業回数15回+定期試験等とすることについて了承され、具体的な問題について継続審議。 3) 平成25年度開講科目について 「人間研究演習Ⅰ」と「宮崎の自然」のシラバス案をもとに協議。 4) カリキュラム改編に伴う授業科目の変更点について 成人看護方法における新旧カリキュラムの読み替え表により旧カリキュラム学生への対応について協議を行なった。 5) 特別欠席について 6) 平成25年度学生便覧の原稿について
	第7回： 11月5 日(月)	1) 平成24年度前期成績について 2) 平成24年度後期成績スケジュールについて 3) 平成25年度学年暦について 4) 平成25年度開講科目について 5) 平成25年度の非常勤講師について 6) 平成25年度時間割表について 7) 平成25年度学生便覧等の原稿について 8) 平成24年度前期授業実績報告について 9) 平成24年度前期授業評価アンケート結果について
	第8回： 12月3 日(月)	1) 平成25年度学年暦について 2) 卒業判定（仮）について 3) 平成25年度特別講師招へい予定について 4) 平成25年度開講科目について 5) 平成25年度シラバス・キャンパスガイドブックについて シラバス（冊子）は平成25年度から1年次生にのみ配付し、4年間使用することとした。2～4年次生については、変更等のあった場合に、科目責任者がそれぞれ対応をすることとした。

平成 25 年 度 の 主 な 協 議 ・ 報 告 事 項	第9回： 1月7 日（金）	1)高等教育コンソーシアムコーディネート科目及び単位互換科目について 2)平成25年度特別講師招へい予定について 3)平成24年度中期目標について 4)平成24年度卒業研究について 5)進級制度の導入に関する検討と具体的な設置案について報告
	第10回： 2月4 日（月）	1)平成24年度卒業判定について 2)平成25年度教科別ガイドについて 3)平成25年度履修登録処理について 4)平成25年度開講科目について 5)平成25年度時間割（案）について 6)中期目標について 7)成績表の送付について 成績表の保護者等への送付について、来年度以降実施する方向で承認。 8)平成24年度後期授業実績報告について 9)平成24年度後期授業評価アンケートについて 10)英語海外研修について
	第11回： 3月4 日（月）	1)平成25年度卒業研究について 2)平成25年度8セメスター教務関係スケジュールについて 3)平成25年度教務委員会スケジュールについて 4)平成25年度開講科目のシラバスについて 5)平成25年度時間割について 6)成績表の送付について 7)中期目標について 8)助産師課程履修者選考結果について
	第1回： 4月2 日（火）	1)平成24年度後期成績について 2)中期目標24年度評価、25年度計画について 3)保健師課程及び助産課程の選択制の選考時期、選考方法の周知について 4)平成24年度後期授業評価アンケート結果について 5)平成24年度後期授業実績報告について 6)平成25年度卒業研究に係る指導可能なテーマについて
	第2回： 4月30 日（火）	1)平成25年度教科別ガイドの評価について 2)平成25年度卒業研究について 3)特別欠席について 4)特別講師の招聘について 5)平成24年度中期計画評価・平成25年度中期計画の一部変更について 6)学外Web「教育情報の公表」の更新について 7)平成25年度履修登録状況について
	第3回： 6月3 日（月）	1)特別講師の招へいについて 2)「人間常態学実習」における解剖学標本示説実習について 本年度より宮崎大学医学部で解剖学標本示説実習を実施することを了承。 3)臨地実習における医療事故防止マニュアルについて 4)「宮崎の自然I・II」の再編について 5)教員の退職に伴う平成26年度開講科目の調整について
平成 25 年 度 の 主 な 協 議 ・ 報 告 事 項	第4回： 7月1 日（月）	1)平成25年度前期成績処理予定表（案）について 2)特別講師の招へいについて 3)教員F D企画（案）について 本年度より実施する解剖学標本示説実習に関連する教員F D企画案の検討 4)平成25年度授業実績報告（案）について 5)学外ホームページの委員会所管分について 6)高等教育コンソーシアム宮崎コーディネート科目について
	第5回： 9月3 日（火）	1)平成26年度実習施設の選定について 2)「人間常態学実習」の解剖学標本示説実習に係るシラバスについて 3)臨地実習における医療事故等防止マニュアルについて 4)卒業研究の閲覧方法について 情報委員会、附属図書館運営委員会との合同協議で、卒業研究のデーター化による保管及びWeb上での閲覧について継続協議を開始。

	5) 学生による授業評価アンケートの課題（低回答率）について 6) 進級制度について 前年度からの検討事項について継続協議を開始。 7) 高等教育コンソーシアム宮崎コーディネート科目の履修について 8) 復学予定学生の履修登録について
第6回： 9月30 日(月)	1) 平成26年度臨地実習計画について 2) 特別欠席について 3) 平成26年度非常勤講師について 4) 単位の実質化を配慮した平成26年度授業日程案を決定した。 5) 進級制度について実施案を決定、各部会の意見をふまえ継続協議。 6) 平成26年度学生便覧の原稿について
第7回： 11月6 日(水)	1) 平成25年度前期成績について検討 2) 平成25年度後期成績スケジュールについて 3) 平成25年度前期授業実績報告について 4) 平成25年度前期授業評価アンケート結果について 5) 平成26年度学生便覧等の原稿について 6) 平成26年度時間割表について
第8回： 12月4 日(水)	1) 卒業判定について 2) 平成26年度学年暦について 3) 平成26年度特別講師招へい予定について 4) 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について 5) 卒業研究の電子化について 6) 進級制度について
第9回： 1月6 日(月)	1) 高等教育コンソーシアムコーディネート科目及び単位互換科目について 2) 平成26年度開講科目的シラバスについて 3) 平成26年度非常勤講師について 4) 平成26年度特別講師招へい予定について 5) 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を決定、教授会に諮る 6) 進級制度について 7) 学生による授業評価アンケートの実施方法について 8) 卒業研究の電子媒体での提出について
第10回： 2月3 日(月)	1) 卒業判定について 2) 平成26年度非常勤講師について 3) 平成26年度特別講師の招へいについて 4) 平成26年度教科別ガイドについて 5) 平成26年度履修登録処理について 6) 履修規程改正案、進級の判定及び臨地実習履修要件（内規）案について 進級制度実施に伴う履修規程の改正、進級判定及び臨地実習履修要件（内規）の制定について協議、改正案および制定案を決定 7) 平成26年度学生便覧原稿について 8) 卒業研究の電子データでの提出について 次年度から卒業研究を電子データで提出することについて、教員向け、学生向け資料の確認、学内ホームページや教科別ガイドで周知。 9) 平成26年度時間割（案）について
第11回： 3月3 日(月)	1) 平成26年度卒業研究について 次年度から学内ホームページを使った卒業研究テーマ入力について 入力フォームや学生への配付資料を検討 2) 平成26年度教務委員会スケジュールについて 3) 平成26年度8セメスター教務関係スケジュールについて 4) 平成26年度開講科目的シラバスについて 5) 平成26年度時間割について 6) 危機管理マニュアルについて 7) 学生便覧原稿について

委員会名	入試委員会
所掌事項	(1) 入学試験の実施に関すること。 (2) 入学試験の調査分析に関すること。 (3) 入学試験の制度検討に関すること。 (4) その他入学試験に関すること。
活動内容	平成 24 年及び平成 25 年度の主な活動内容は次のとおりである。 (1) 本学の魅力をわかりやすく入学希望者に伝えるキャンパスガイドブックの見直し (2) 優秀な学生を確保するため、オープンキャンパス及び進学説明会を開催し、進路相談会への参加、模擬授業等依頼への対応を通して、入学希望者への大学の特色や学生受け入れ方針の周知 (3) 優秀な学生、目的意識の明確な学生の入学を促進するため、大学コンソーシアム宮崎との連携、高校との情報交換の促進 (4) 本学の入学試験結果を吟味し、優秀な学生を選抜する入学試験の選抜方法の検討
成果と課題	(1) 平成 24 年度にキャンパスガイドブックの内容や構成を拡充し、2013 年度版を作成し、平成 25 年度にはその内容を更新した。キャンパスガイドブックを活用して、進学説明会等で大学の情報や特色を発信した。今後は更に内容の改善を図っていく必要がある。 (2) オープンキャンパス及び進学説明会を実施し、進路相談会に参加、模擬講義の依頼に対し本学教員を派遣した。 オープンキャンパスの参加者は、平成 24 年度 498 名（県内 459 名、県外 39 名）、平成 25 年度 504 名（県内 480 名、県外 24 名）であり、これまでよりも多くの参加者を集めることができた。アンケート結果でも、両年とも「とても参考になった」との回答が多く、これまでの取組の効果が認められた。 本学主催の進学説明会は、県央・県南対象で宮崎市、県北で延岡市、県西で都城市の各地で、年一回両年とも開催した。業者等主催の進路相談会には、平成 24 年度は 17 件、平成 25 年度は 23 件参加した。模擬講義・出前講座の依頼には教員の都合のつく限り対応し、平成 24 年度は 13 件、25 年度は 11 件行った。講義等の際に行ったアンケート調査から、看護や本学の魅力を伝えることができた。模擬講義による高校訪問時には、高校教員と訪問した高校の出身学生の現状を伝える等情報交換を行った。 オープンキャンパスにおいて、今後 500 名以上の参加者を迎えることを想定すると、今の体制では受入困難な状況が考えられ、多くの参加者に対応した内容検討が必要である。模擬講義や進路相談会担当者の育成は、今後継続的に取り組んでいく必要がある。業者等からの進学説明会の依頼は年々増加の傾向であるため、対応を検討する必要がある。 (3) 平成 24 年度のコンソーシアム宮崎の授業体験会での本学の模擬授業には、63 名の高校生の参加があり、98%が「本学への関心が高まった」と答えた。平成 25 年度のコンソーシアム授業体験会は 126 名の高校生の参加があり、95.1%が「本学への関心が高まった」と答え、本学への入学希望者を増やす効果があった。 (4) これまで入試方法・成績と入学後の成績との連関について統計的に検討したが、相関・有意差は各学年共にほとんど認められなかったことから、選抜方法として不具合はないと評価できた。
今後の取組	オープンキャンパスについては、参加者と本学学生とのふれあう時間を多くつくり、これまで以上の参加者の場合にも受け入れ可能な体

制作りを進めていく。

進学説明会の担当者の育成は、若手教員を中心に今後継続的に取り組んでいく。そして、担当者用の必要物品やファイルの整備を行い、効果的効率的な体制を作っていく。

高校側のニーズを絶えず確認していくため、高校教員との情報交換の機会を更に多くする必要があるが、今後どのような取組が必要か検討していく。

入試方法・成績と入学後の成績との連関について更に検討し、平成26年度に新しい入試方式・方法について提案したい。あわせて他大学の入試方式の研究も進めていく。

委員会名	学生委員会
所掌事項	<p>学生生活全般に関する事を審議する。審議事項は、学生委員会規定で以下のように規定されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の福利厚生に関すること 2. 学生の課外活動に関すること 3. その他厚生補導に関する重要事項に関すること
活動内容	<p>1) 委員会活動</p> <p>平成 24 年度・平成 25 年度の委員会活動は定例どおり、11 回開催した。具体的な審議事項は以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) · 学生生活ガイダンスの実施について <ul style="list-style-type: none"> · 学生定期健康診断について · 新入生オリエンテーションの実施について · 学生生活実態調査について · 学生の生活調整について · 奨学生推薦者の審査 (2) · 大学祭に関する支援について <ul style="list-style-type: none"> · サークル申請の許可、助成金の交付 · 学生自治会の支援 · 構内美化活動の指導 · 学生安全委員会への支援 (3) · 交通安全教室の開催について <ul style="list-style-type: none"> · 駐車場、駐輪場や構内各施設の利用 · 消防避難訓練の実施について · オープンキャンパス協力学生の選出 · 学年顧問の選出 · 学年顧問の役割について · 留年または学業不振の学生の担当教員について · 後援会総会、役員会の開催について · その他、犯罪被害予防について（平成 25 年度新規） · 学内 Web を活用した年間広報活動計画について <p>2) 定例の委員会活動以外で学生委員会が中心となって行った主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> · 学生生活ガイダンス実施（平成 24 年度・平成 25 年度） · 新入生宿泊オリエンテーション実施（平成 24 年度・平成 25 年度） · 大学祭開催支援（平成 24 年度・平成 25 年度） · サークル説明会および事務処理説明会実施（平成 24 年度・平成 25 年度） · 交通安全教室実施（平成 24 年度・平成 25 年度） · 消防避難訓練実施（平成 24 年度） · 防犯被害予防講習会の開催（平成 25 年度新規） · 後援会総会および役員会の開催（平成 24 年度・平成 25 年度）
成果と課題	<p>平成 24 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学年顧問の役割を見なおし、各学年顧問の活動を学生委員で共有ファイルを作成して、学年別の支援体制を把握できるようにした。学年顧問による修学支援の実際、その成果と課題については 6 章第 1 節（1）において報告する。 (2) 入学初年度の対応を密にし、入学直後の学生生活ガイダンス、新入生オリエンテーション終了後ホームルームを実施して、大学での学修生活に円滑に入れるように、履修方法等の全体質疑、個別対応をおこなった。課題として、個別の関わりが必要な学生が増えてきている傾向があることがあげられた。新入生オリエンテ

	<p>ーションの実際、その成果と課題については6章第1節(3)で、大学祭の運営支援の実際、その成果と課題については6章第5節(2)において報告する。</p> <p>(3) 学生自治会安全委員会や美化委員会に学生委員の教員が参加し、主体的活動の方向を話合ったことで、自治会の年間スケジュールの中に組み入れられ、担当学生の安全や美化意識が高まった。課題としては、担当学生および一部の有志学生が主体的に参加するが、全学年を巻き込んだ取り組みには至らなかった。</p> <p>(4) 学内Web上に学生委員会の広報欄を設け、活動報告や学生への情報発信をした。</p>
	<p>平成25年度</p> <p>(1) 学年顧問のあり方を継続検討し、学年顧問の活動の報告・支援の体制が整備された。課題としては、学生の抱える問題は個別でかつ多岐に渡っており、個別面談にかかる時間もさまざまであるため、まずは、学年顧問の関わりの現状を把握する必要があることが明らかになった。</p> <p>(2) 学生安全委員と教職員が連携し、個別ロッカーの管理方法を整え、盗難を未然に防ぐことに取り組み、盗難が発生しなかった。県警とタイアップして犯罪被害予防講習会を開催(2年次・4年次)し、対応や護身についての知識を学び安全な暮らしを守る意識を高めた。課題として、開催が時間割の都合上、2つの学年にとどまつたこと。また、今年度は、地震予知に対しては避難訓練を行つたが、防火避難訓練が実施できなかつたことがあつた。</p> <p>(3) サークル活動についての調査を行い、サークルに所属する学生的満足度が高いことがわかつた。課題としては、一部のサークルでは、部員の減少があるため、サークルの中心となる学生とサークル顧問とが連携を図る必要がある。サークル活動報告の詳細については第6章第5節1(1)において報告する。</p> <p>(4) 学生等の申請書様式、手続き等、学内掲示板利用法を改善、学内駐車場利用許可証し、利便性を高めた。課題としては、生活実態調査等の結果をふまえて、学生と教職員との連絡の利便性を高めて行く。駐車場の適正利用を推進する。</p>
今後の取組	<p>(1) 学年顧問のあり方について継続検討する。学生が自主的に学習できるよう、学修に関する疑問や生活上の悩みを相談できる支援体制を強化する。</p> <p>(2) 今後、顧問の個別な関わり内容や頻度等の調査を行い、学生のニードを満たせる顧問のあり方を検討する基礎資料を得る。</p> <p>(3) 大学祭やサークル活動における地域と連携した活動やボランティア活動等、学生の課外活動や地域貢献活動を支援する体制を整備する。</p> <p>(4) 交通安全や防災、防犯等に関する安全教育、ハラスメント等に対する教育及び予防対策を年間計画に組み込んで、今後、全学年に講習の参加を広げ、安全・自己防災意識を高める。</p>

委員会名	広報委員会 註；平成 25 年度発足の委員会
所掌事項	(1) 学外 Web に関すること (2) 広報誌「看護大からこんにちは」の編集・発行に関すること (3) キャンパスガイドブックの作成に関すること (4) オープンキャンパスに関すること (5) その他大学広報に関すること
活動内容	<p>平成 25 年度 大学の広報力を高めるため、平成 25 年度より、看護研究・研修センターの広報部会から分離、新たに広報委員会として発足したため平成 25 年度分の活動を記す。</p> <p style="text-align: right;">別添資料；成果報告書（総括）</p> <p><u>(1) 学外 Web による情報発信とその運営</u> • 教員情報・講義情報更新（年度当初に実施） • Web 内容の更新（ニュース記事 49 件、イベント予告 16 件、バナー作成 20 件） <新たな取組> • サイト内検索窓の設置 • Google Analytics 導入による閲覧状況の把握と分析 • 学外 Web システムの更新 • 教育情報公表内容の評価</p> <p><u>(2) 広報誌「看護大からこんにちは」の編集・発行</u> • 春号と秋号の発行 <改善への取組：読みやすさを追求> • 構成や掲載内容の大幅な見直し • 全面カラー印刷とし、文字数を少なく、見出しやイラストを工夫</p> <p><u>(3) キャンパスガイドブックの作成</u> • 平成 26 年度分の作成 <改善への取組：大学への関心が高まる内容へ> • 前年度の評価をもとに、大学生活がイメージしやすい内容や構成へと改善 • 写真サイズ、文字数、色調を検討</p> <p><u>(4) オープンキャンパスの広報</u> (*企画運営は入試委員会) ラジオ、新聞、学外 Web を活用した広報 <新たな取組> • 広報用リーフレットを作成し、進路相談会で配布</p> <p><u>(5) その他</u> • 広報媒体の開発：大学概要版と学内演習版の DVD を広報委員会で手作りし、学内外における進学説明会、進路相談会等で活用。 • 「宮崎県立看護大学における戦略的広報活動に関する方針」の策定：これにより広報活動を全学的な取組として位置づけ、展開する基盤をつくった。</p>
成果と課題	<p>広報紙の改善、学外 Web のリニューアル、新たな広報媒体として大学案内 DVD の作成、ラジオや新聞を活用した積極的な広報、教育情報公表の評価など、従来の広報方法や内容を見直し改善を図ることにより、一定の広報成果が得られたと考える。今後、従来の広報方法の更なる改善とともに、新たな広報手段・媒体などの開発に取り組む必要がある。</p> <p>また一年間の活動の総括に基づき、「宮崎県立看護大学における戦略的広報活動に関する方針」を委員会で策定後、大学全体で共有した。これにより活動の土台を築くことが出来たことは一つの成果である。今後、方針に基づく全学的取組をどのように展開するかが課題である。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 従来の広報手段の更なる改善 新たな広報媒体・方法の検討（大学イメージキャラクターの導入も検討中） 本学の広報に関する評価方法の検討

担当	学外Web 長坂・荒木	広報紙・DVD他
		看護大からこんにちは 大館、川原、川村、勢井、毛利
活動の概要	<p>・平成25年4月に看護研究・研修センター広報部会のWeb担当者(小河准教授)から業務を引き継いだ。年度はじめの教育情報公表の更新については、前任者に担当してもらったが、引継ぎ後の情報発信については、当委員会の担当者がサポートした。ホームページにサイト内検索を設置し、Google Analyticsなどを利用して閲覧に関する情報をとれるようにした。これまでのサイトで採用されているシステムが古くなつたことと、使いやすさなどを改善するために、今期はシステム全体の更新を実施した。これまで公表してきた教育情報については、委員会内から改善すべき点の指摘があつた。</p>	<p>・4月、5月における広報委員会での協議内容をふまえ、多くの読書の興味・関心を引くよう、「看護大からこんにちは」vol15,vol17の構成や掲載内容の大幅な見直しを行つた。また、誤植のないようよう、複数で校正を行つた。</p>
評価	<p>【旧サイトでの作業】これまで、式典や入試などの情報発信はあつたが、それ以外の最新情報は、イベント担当者(おもちゃ広場など)から持ち込まれない限り、ほとんど更新されることはなかつた(確認できたものは14件)。平成25年度は、イベントの予告を含めて年間65件の記事を発信することができた。記事によつては、バナーも作成した(20件)が、イベント担当者が作成して持ち込まれるケースは見られなかつた。</p> <p>Google Analyticsのデータ(2013-07-01～2013-11-04)によれば、大学サイトの訪問数は24,875であった。ユーザー数でみると、1日あたり100～200アクセスであったが、7月からは学内でも教職員に限つて金曜日のみ学外向けページが表示される設定に変更したので、金曜日だけは規則的にアクセス数が200を超えた。利用ブラウザのデータから、タブレットからのアクセスが約25%あつた。キーワード別の検索からみると、約45%が任意のキーワードによって本学サイトに辿りつき、「宮崎県立看護大学」「宮崎県立大学」「宮崎看護大学」などのキーワードで辿りついたのは、全体の35%程度であった。</p> <p>【新サイト構築】委員会で刷新したいと要望した結果、事務局から新サイト構築が可能との返事があり、夏以降に情報政策課と打ち合わせ(2回)をして、仕様を固めた。12月の企画コンペによって、構築業者(ニコニコネット)が決つた。仕様書の技術的な内容については、長坂委員が作成したが、全体の書類は尾曲委員が作成して、県庁のサイトで公開した。サイト更新は、1月から作業に入っている。</p> <p>新サイトのスタートに合わせ、事前にできる更新情報の確認については早めに連絡し、図書館、国際交流、センターについては、それぞれの担当者が専用ページを編集できるような形に作成することが決つた。教員情報については、現行のデータをすべて新たなテーブルに入力しなおした。今後、学内Webに更新用のフォームを作成すれば、学内ネットワークのIDとパスワードを用いて、データ更新できるようになる。</p> <p>新サイトは平成26年4月中に公開する予定である。新サイトではCMS(記事投稿を管理するシステム)で運用され、構築業者が保守に入ってくれるため、記事と写真があれば、プログラムなどの知識がないユーザーでも、容易にWebで情報発信ができるようになる。</p> <p>【ツイッター】フットワークの軽い情報発信と、非常時に用いるSNSとして、ツイッターでの情報発信も開始した。今年度は52ツイートした。長坂委員が数年間のサポートに入つてきたが、総務の中武主事が数回記事を投稿し、今後は140文字以内の記事が手もとにあれば、投稿については対応できるようになっている。</p>	<p>・前年度までは、8ページ中、2ページがカラー印刷で、6ページが白黒印刷であったが、本年度は8ページ全てをカラー印刷とし、その色合いも読者が優しさや親しみを感じるよう工夫した。また、1ページあたりの文字数を減らし、見出しやイラスト等を多用することで、読者の見やすさ、理解のしやすさが増すように努めた。</p> <p>・誤植、体裁等の誤りはなかつた。</p> <p>・年度計画を作成し、計画的に業務が進むよう努めたが、秋号については、発刊が予定より大幅に遅れた。</p>
次年度に向けて	<p>【記事作成】平成25年は、不定期に発信した新着記事の作成やバナーについて、かなりの部分を荒木副委員長がボランティアで対応した。取材や検索などを含め、記事の編集作業は負担が大きい。同時に、委員の記事作成に関するスキルアップも図れないため、委員会内で何らかの分担が必要である。3月の委員会では、作業内容の説明とともに、輪番での記事作成について提案した。</p> <p>【システム更新】サイトのシステム更新については、委員会から要望を出したものの、企画を出して、予算申請をしたものではなかつた。事務局の委員(総務担当など)は、いずれ交代になるため、今回の手続きが次回(何年後になるかは不明)の更新には、今回の手続きが参考にならない可能性がある。ちなみに前回の更新(5年前)でも、同様に総務担当の提案で、事務局が独自に予算を調達した。当時の広報部会(センター委員会)のメンバーなどがコンペで業者を決めたが、予算については、どのような手続きであったのかは明らかではない。</p> <p>【教育情報の公表】今期は、勢井委員に教育情報の公表内容について達成度に関する評価をしてもらつた。学部・大学院ともに、学校教育法施行規則第172条の2および学校教育法第69条の3にもとづいて不足である点が指摘された。とくに自己点検評価と財務・経営に関する情報については、示されていないため、今後掲載すべきであろう。</p>	<p>・原稿の回収をなるべく早くする。</p> <p>・入稿時期をなるべく早くする。</p> <p>・1ページあたりの文字数をさらに減らす。</p> <p>・更に内容や構成を吟味し、本学への関心が高まるような広報誌を計画的に作成する。</p>

担当	広報紙・DVD他		オープンキャンパス	模擬講義 川村
	キャンパスガイドブック	DVD		
	川原・古場	川原・荒木・長鶴・毛利		
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の評価をふまえ、高校生、保護者、高校教員等に关心を持ってもらえるように掲載内容や構成を見直し充実を図った。また、複数で重複して校正を行い誤植、体裁の誤りなどがないようにした。次年度当初からの広報活動に利用できるよう年度内完成を目指して取組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学PR用として、7分間のDVDを作成した（大学概要版）。その後、学内演習版も作成した。DVDは、学内外の高校生、保護者、高校教員等を対象とする進学説明会、進路相談会等で活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ（おはよう県庁）、新聞（県政掲示板）、学外Webでの広報を行った。また、リーフレットを作製し、進路相談会などに持ち込み配布した。特に、プログラムにおいて、在校生と交流できる時間を大幅に増やしたことをアピールし広報活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬講義受け入れ規準に従って広報活動を行った。10件の要請に対して、9件対応を行った。講義を受けた高校生に対して、「魅力ある講義であったか」という観点から授業評価できるアンケートを配布して可能な限り協力してもらった。高校の進路担当の教諭などに対して本学の魅力などを伝えるチャンスとして模擬授業のために高校に出向いた時を活用し、高校生に対して講義を行うことに留まらず、高校教諭と情報交換を行うよう努めた。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 温かみのある色合いを用い優しさや親しみやすさを感じるものとなった。在校生、卒業生・修了生の様子や進学説明会などで質問の多い項目を内容に盛り込んだことで、大学生活をイメージしやすいものとなった。写真サイズを大きくし、文字数を8割減したことで見やすくなかった。 誤植、体裁等の誤りはなかった。 年度計画を作成し、計画的に取り組み年度内に完成了。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業者決定時期をなるべく早めること。 表紙決定の迅速化 	<ul style="list-style-type: none"> 待ち時間に視聴することで、来場者を飽きさせることなく、本題へのスムーズな導入が図れた。 短時間のDVDであるが、コンパクトに大学情報を伝える媒体となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のDVDは素人が作成したものであり、今後は業者制作等も検討しながら、クリティを高め、活用機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスへの参加者は、最終的に512名であった。全体プログラムの中で、在校生との交流が好評であったことがアンケートにより把握できたことから、広報する内容に「在校生と交流できる時間が多いため」と入れ込んだことが効果的であったと思われる。新年度に入った4月から進学説明会がラッシュで行われる為、本学へ関心のある受験生が集まるブースでオープンキャンパスのリーフレットを配布できる準備を早期に行うと、さらに効果的な広報に繋がる。オープンキャンパスの企画担当の入試委員会と連携してリーフレットの作成を前倒しで行っていく。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ラジオ（おはよう県庁）、新聞（県政掲示板）、学外Web、ツイッター、進学説明会でのリーフレット配布を行う。広報は、開催月日や場所などの形式面に留まらず、高校生にとって魅力あるオープンキャンパスがイメージできるようなものになるよう工夫していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 9件の模擬講義で、合計204名の高校生が授業を受けていたが、アンケートの記述より授業内容は大変理解しやすく、看護職のイメージ作りや、本学の魅力が伝わる授業になっていたことが読み取れた。尚、25年度中に、県立高校1件に模擬講義（25年度3月18日予定）が残っている。 業者企画の模擬講義の場合は、高校の教諭との接触をすることが難しいことが多いが、高校主催の模擬講義の時には、広報活動の場とすることができる。その際、出向いた高校の出身学生が、本学入学後どの様に大学生活を送っているか、さらに看護職としてどのように活躍しているかなどの情報を前もって集めておいて、情報交換の材料にすること、さらに、本学のアドミッションポリシーや本学の教育課程の特徴等を添えて情報提供する等を積極的に行う余地がある。模擬講義に出向く教員は、広報委員、入試委員だけではないので、全ての教員が大学広報を担っているという意識を持つように取り組むことが課題である。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 更に内容や構成を吟味し、本学への関心が高まるようなキャンパスガイドブックを計画的に作成する。 「表紙」は、いくつかの候補から、在校生の意見を反映しながら決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> DVDの活用を図るとともに、使用者の意見などから内容・構成等について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスのリーフレット作成は早めに行う。 	入試委員会へ移行

広報委員会年間活動実績(平成25年度) 4月～9月

月	4	5	6	7	8	9
定例委員会	★	★	★	★		★
中期目標		★内容確認・担当決め				
各委員会との連携			★連携みとり図作成・共有 ★広報担当者会議	★学外Web意見集約		★広報委員会にて検討
学外Web刷新		★改善提案	★意見募集(委員会内) ★情報政策課に打診 ★次期学外Web仕様書案作成			
学外Web						
教員情報・講義情報更新作業 (今年度は前担当者に依頼)	★公開					
教育基本情報更新	★関係者に依頼	★完成・掲載				
ニュース記事投稿 (合計49件)	5件	1件	4件	9件	3件	2件
イベント予告 (合計16件)	4件	3件	1件	2件	3件	0件
バナー作成 (合計20件)	3件	3件	6件	2件	1件	0件
その他学外Web作業			★検索窓設置・Google Analytics導入			
広報ビデオ作成(BGM版)			★作成(川原先生)			
広報ビデオ作成(学内実習編)		撮影・編集	★完成			
広報誌			秋号編集			
キャンパスガイド	★2013版完成・配布開始			印刷業者決定、表紙・構成検討・決定		執筆者選定・依頼、撮影
オープンキャンパス			★ラジオ出演 ★チラシ作成・配布 ★実施 ★「県政けいじばん」にて告知			
模擬講義等(高校数) (合計11件)			3件	2件	1件	1件
学外団体(高校等)の訪問 (合計15件)	1件		1件	4件		1件
その他						
マスコミ紹介・掲載記録作業 (合計30件)			12件	9件	9件	
大学見学	学外団体訪問に含む	"	"	"	"	"
大学ロゴファイル整理			★学内に提供			
PPTテンプレート作成				★		
カメラ取材 (合計15件)	4件	1件	3件	4件	2件	

広報委員会年間活動実績(平成25年度) 10月～3月

月	10	11	12	1	2	3
定例委員会	★	★	★	★	★	★
中期目標				H25評価・H26計画検討 戦略的広報活動方針検討 ⇒ 決定（教授会承認） 教育情報公表のあり方検討		
各委員会との連携			★学外Web意見集約	★学外Web意見集約	★学外Web意見集約	★学外Web意見集約
学外Web刷新	★情報政策課相談		★業者打ち合わせ ★企画コンペ	★業者打ち合わせ	★業者打ち合わせ	★教員紹介DB作成 ★業者打ち合わせ
学外Web 教員情報・講義情報更新作業 (今年度は前担当者に依頼)						
教育基本情報更新						
ニュース記事投稿 (合計49件)	3件	4件	6件	3件	2件	7件
イベント予告 (合計16件)	0件	0件	1件	0件	1件	1件
バナー作成 (合計20件)	1件	2件	1件	0件	0件	1件
その他学外Web作業						
広報ビデオ作成(BGM版)						
広報ビデオ作成(学内実習編)						
広報誌		★発行・配布 春号編集		春号編集		★発行・配布
キャンパスガイド	撮影、原稿締切		初校正、確認	二校正、確認	三・四校正、確認	★2014版完成・ 配布開始
オープンキャンパス						
模擬講義等(高校数) (合計11件)	1件	1件			1件	1件
学外団体(高校等)の訪問 (合計15件)	6件	2件				
その他						
マスコミ紹介・掲載記録作業 (合計30件)						
大学見学	"	"	"	"	"	"
大学ロゴファイル整理 PPTテンプレート作成						
カメラ取材 (合計15件)						1件

委員会名	情報委員会
所掌事項	(1)学内ネットワークの管理運営に関すること。 (2)学外ネットワーク等との連絡調整等に関すること。 (3)その他情報システムに関すること。
活動内容	情報委員会は、大学情報ネットワークシステムの構築*とICT（情報通信技術）の効果的な利活用の推進に取り組み、次の活動を行っている。 (1)ICT環境の整備・維持管理・運用 (2)教育・研究におけるICT利活用の支援 (3)学内Web、電子メール、共有サーバーを活用した情報の受発信 (4)情報セキュリティ対策、個人情報保護 (5)MAIS（宮崎地域インターネット協議会）に参加 *機器更新は5年間のリース契約で計画的に行い、メインテナンス及びセキュリティ対策は専任のシステムエンジニアの常駐体制（外部委託）により行っている。また、委員会に技術部会を設置し、専門的知識・技術を必要とする活動や作業等を行っている。
成果と課題	成果 <u>(1) ICT環境の整備・維持管理・運用</u> ① 平成27年8月予定の機器更新に向けて、現行システムの変更すべき個所を整理することを目的に、全教職員を対象にアンケートを実施した。また、県のサーバー統合化について、県と協議をすすめている。 ② 学外から遠隔で学内専用ネットワークを使用するシステム（リモートログイン）の利用手引書を作成した。 ③ 大学リポジトリの構築で、システムの導入から動作確認までを実施した。 ④ 情報委員会規程、情報ネットワーク管理規程、情報ネットワーク利用規程を見直し、改訂した。 ⑤ 新任者への文書を作成し、情報ネットワークの利用やセキュリティに関する規程、機材の管理、メールソフトの利用等について周知した。 <u>(2) 教育・研究におけるICT利活用の支援</u> ① 卒業研究の要旨は、学内Webで学生が入力して提出、検索が可能なシステムを構築し、データベース化して有効に活用している。登録受け付けメールが返信されるように改善した。修士論文の要旨も同様に、学内Webで入力、検索が可能なシステムにした。また、卒研データベースの作業手順に関する簡易マニュアルが作成され、関係教員で共有された。 ② 学生は、情報処理室で授業時間をのぞいて自由にパソコン等を使い、多くの科目の学習や卒業研究などに利用している。学生が主体的に情報処理室のルールを守って利用できるように学生情報委員会が活動しており、情報委員会でその活動を支援した。 <u>(3) 学内Web、電子メール、共有サーバーを活用した情報の受発信</u> ① ICTの整備等が適切に行われ、学内Web、電子メール、共有サーバーを活用して情報の受発信、情報の共有が迅速かつ適正に行われている。 ② 学内Webの画面から各自が直接入力するシステムが構築され、それを用いて基礎看護学の自己評価システム、卒業研究及び修士論文の各要旨や授業評価アンケートの入力、電子メールの転送、講義室など施設の予約等を行っている。 ③ 毎年、年度初めに、各種委員会等のメーリングリストの更新、新入生（学部生・院生）のメーリングリストの作成等を行い、年度の終わりには卒業生や修了生にアカウント削除に関する通知等の作業を行い、管理している。

	<p><u>(4) 情報セキュリティ対策の強化と個人情報保護ポリシーの策定</u></p> <p>① 情報セキュリティ事故を教訓に、再発防止に向けて「情報ネットワーク緊急時対応マニュアル」を作成した。全教職員に配布して、事故発生時の対応手順について周知徹底を図った。</p> <p>② 外部記録媒体等の取り扱いの厳正化を目的として「外部記録媒体管理要領の取扱について」を作成し、周知・実行している。</p> <p>③ 年1回、ソフトウェア現有確認作業を行っている。学内ソフトウェアの一元管理については、事務局内に実施体制が整った。あわせて、不用なパソコン、外部記録媒体等を回収し、適切な廃棄処理を行った。</p> <p>④ 外部攻撃またはWebサイトを経由して本学関係者の個人情報が漏れた場合等の事例を想定して、対応の検討を行った。次年度、それを基に「危機管理個別マニュアル（情報編）について」を作成することとした。</p> <p>⑤ 災害時に県によるシステム復旧の対象として選定された。本学情報システムの非常時の早期復旧等及び平時の事前対策の計画的な整備を図ることを目的として、宮崎県ICT業務継続計画（看護大編）を作成し情報政策課へ提出した。これを用いて平成24年9月は学内で、翌2月は県庁と連携して机上訓練を実施し、行動手順等を確認した。</p> <p>⑥ 情報セキュリティ外部監査を平成25年1月に受け、CALLシステム、教務・入試システムにおいて、本学が実施する情報資産取扱ではセキュリティ上の大きな問題はないことが報告された。</p> <p>⑦ 全教職員に、県主催の情報セキュリティや個人情報保護に関する研修会及びeラーニング研修への参加を呼びかけ、一定の参加があった。</p> <p>⑧ 各種のネットワーク関係のトラブルに対して適切に対応している。適時に注意喚起や対応を行い、予防措置を講じた。問題等が発生した場合は速やかに是正措置を講じた。</p> <p>⑨ 個人情報保護ポリシーの文案とリンクを検討し、策定した。</p>
今後の取組	<p><u>(5) MAIS（宮崎地域インターネット協議会）に参加</u></p> <p>MAIS内の接続形態が変更になったため、宮崎大学経由から、市内アクセスポイントを経由するルートに変更した。</p> <p>課題</p> <p>活動の中心的な部分で専門的知識や技術が必要であるが、現在、技術部会員は、教員2名と職員1名（3年で交代）であり、人材が不足している（長年、技術部会員であった教員1名が平成25年度に転出した）。ICTの活用を推進する人材の育成・確保が課題である。また、勉強会・研修会等により全教員のICTリテラシーの向上を図ること、組織的・戦略的な取組も今後の課題である。</p> <p>ICTは急速に発展し、情報通信基盤の拡充も進んできている。幅広い分野においてICTが効果的に活用されることにより、教育・研究・地域貢献等における活性化等にもつながると期待される。情報化にかかる最近の社会動向において、情報システムの共同利用（システムクラウド化）、ソーシャルネットワークやタブレット端末などの新たなモバイル機器等の積極的な活用等が増えている（宮崎県電子行政推進指針 参照）。このような動向にも対応できるように、平成27年8月予定（状況によっては1年延長）の機器更新に向けて、大学情報ネットワークシステムの構築に継続して取り組む。また、情報セキュリティ対策を強化するとともに、研修、教育、啓発等の継続的な取組を行う。</p>

委員会名	国際交流委員会
所掌事項	(1) 国際交流事業の計画に関すること (2) 学術交流に関すること (3) 学生交流に関すること (4) その他国際交流に関すること
活動内容	(1) 国際交流事業の計画に関すること 学生を対象とする短期留学奨学金プログラムの実施、年間3つの短期研修プログラムの企画・実施、短期留学生受入プログラムの企画と実施を行った。 また、現在、韓国の梨花女子大学、タイのチェンマイ大学、中国の西安交通大学と協定を締結しているが、学生交流に力を入れている大学を新たに開拓中である。 (2) 学術交流 ・若手教員FDとして、助手・助教・講師の教員を学生プログラムに現地指導教員として派遣している。平成24・25年度は、韓国の梨花女子大学(平24)、白石大学(平25)、タイのチェンマイ大学(平24,25)、米国サンノゼ州立大学とサンノゼ市医療機関(平24,25)にて教職員やスタッフとの交流・情報交換を行った。 ・チェンマイ大学看護学部生短期受け入れプログラム(平24,25)において、教員交流の場を持ち、それぞれの医療・看護教育の現状や課題について情報交換を行った。 (3) 学生交流 ・短期留学奨学金プログラムとして、募集・選考の結果、中国、オーストラリアに各1名(平24)、英国、台湾に各1名(平25)を派遣した。 ・短期海外研修プログラムのうち、韓国異文化体験プログラム(平24,平25)、チェンマイ大学交換留学プログラム(平24,25)、サンノゼ(米国)研修プログラム(平24,25)を実施した。 ・チェンマイ大学看護学部より学生4名・教員1名の受け入れを行った(平25)。 ・台湾大学学生2名と本学健康促進サークルを中心とした交流会の開催(平25) (4) その他国際交流に関すること 危機管理マニュアルを作成し、JCSOSに加盟することで、平24・25年度ともに海外に派遣する学生の管理体制が以前より改善されている。
成果と課題	成果 学生の短期海外研修に対する関心が高まり、大学主催の3件のプログラムへの参加希望者や自分で海外研修を行いたいという学生が増えている。 課題 ① 大学間協定の見直し・協定を活かした取組の再検討が必要 ② グローバル化以前に、まずは学内全体に国際交流への関心と必要性を植え付けていく取組を継続・強化することが必要 ③ 留学生受け入れ可能性を広げることが必要。受入方法の検討 ④ 1週間のプログラムは短いという学生が出てきた。
今後の取組	① 宮崎県立看護大学学生海外留学に関する規程・外国人留学生規程の見直しと体制の検討 ② 協定大学との交流のあり方を検討 ③ 学生対象の短期海外研修プログラムの見直し ④ 若手教員の国際交流

委員会名	研究紀要委員会
所掌事項	(1) 研究活動に関すること (2) 研究紀要の企画に関すること (3) 研究紀要原稿の収集に関すること (4) 研究紀要原稿の審査及び掲載原稿の選定に関すること (5) 研究紀要の編集及び発行に関すること (6) その他
活動内容	平成 24 年度及び平成 25 年度 (1) 研究集談会の開催 (2) 外部研究資金の申請、獲得に向けての学習会の開催 (3) 宮崎県立看護大学研究紀要（以下、研究紀要）投稿への支援 (4) 研究紀要の発行 (5) 「宮崎県立看護大学看護学研究会」開催の学術集会支援 (6) 研究成果のオープンアクセス化
成果と課題	平成 24 年度 (1) 研究集談会を 3 回開催し、学内ホームページに発表要旨を掲載した。全教員の約半数が参加し、研究の方向性や実践内容を発展させるための意見交換を行った。→開催回数を増やし、領域を超えた討議としての活性化をはかる。 (2) 本学の教育・研究活動の実践報告として、若手教員の投稿を支援し、掲載した。→投稿件数を増やすことが課題 (3) 各種研究資金の獲得状況（新規申請 4 件中 2 件採択）や研究の進捗状況を把握した。科研費獲得学習会（8 月実施）には、若手教員を中心に参加があり、その内 3 名が新規に申請を行った。→採択には至らなかった。今後申請数を増やすことが課題 平成 25 年度 (1) 年度当初に研究集談会の実施計画（開催日、話題提供者）を決定した。開催の周知を事前に学内 Web 等で掲示し、今年度は研究集談会を 5 回開催した。全教員の 7 ~ 9 割が参加し、参加率が高まった。領域を超えた討議により、各教員の研究意識の向上、研究課題の焦点化につながった。集談会当初から学内 Web に掲載しているデータ（テーマ、発表者、要旨）を整備し、情報共有に努めた。 (2) 研究紀要の発行に取り組んだ。→隨時投稿を促進し、掲載数を増やすことが課題 (3) 機関リポジトリが構築され、研究紀要のオープンアクセス化を実現した。 (4) 科研費獲得学習会の定期開催により、申請件数は 6 件と増えてきた。→採択迄には至らず、継続した取組及び支援が必要である。 (5) 「宮崎県立看護大学看護学研究会」主催の学術集会について企画から発表までの支援を行った。その過程で、教員との共同研究に発展し、研究成果として紀要への掲載につながるよう、卒業生及び修了生を中心とした実践及び研究活動の情報収集を積み重ねてきた。
今後の取組	(1) 科研費申請等、外部資金獲得への学内支援体制の充実を検討し、精力的に取り組む。 (2) 本学の教育・研究活動の成果を社会化することに取り組む。 (3) 地域の専門職者等と共同研究を行い、その発表の場として、本学学会及び研究紀要を活用する。 (4) 研究集談会の回数を増やすことを通して、各領域からの教育成果の発表、地域貢献事業等の成果発表、参加した研修内容の共有等を図り、教育及び研究の質保証に向けた取組を発展させる。 (5) 機関リポジトリの活用による研究成果の発信を推進する。

委員会名	就職対策委員会
所掌事項	(1) 就職先の開拓に関する事 (2) 就職の情報収集に関する事 (3) その他就職活動支援に関する事
活動内容	<p>平成 24 年度</p> <p>1) 24 年度就職対策計画 2) 24 年度卒業生の看護実践を知る会の計画・実施 3) 4 年生 就職ガイダンス 履歴書の書き方についてレクチャーを導入 4) 県立病院ナースガイダンス 日程調整と参加学生への呼びかけ 5) 県立病院看護師採用試験実施方法の変更に合わせ、模擬面接を計画・実施 6) 国家試験対策 　　合格 100% に向けた対策 クラス全員の士気を高め、孤立しがちな学生への支援、模試結下位 30 名への支援を実施 7) 県職以外の模擬面接を希望により実施 8) 国家試験受験手続事務説明会 9) 県内就職対策により、第 1 回県内病院合同就職説明会の企画・実施 10) 就職対策関連の学外 Web 掲載 内容検討</p> <p>平成 25 年度</p> <p>1) 25 年度就職対策計画の充実 2) 5 月 20 日 (月) 卒業生の看護実践を知る会の企画・計画・実施 　　キャリア支援の一環として 1 年生から 4 年生までを対象とする 3) 25 年版 進路の手引 作成 4) 4 年次生の就職ガイダンス、履歴書の書き方のレクチャー今年度も継続 5) 県立病院 ナースガイダンス (4 年生) 、バストア (3 年生) の広報 6) 模擬面接の計画と実施 7) 4 年生 進路調査の実施と集計 8) 国家試験対策について検討・周知：学生への激励 9) 国家試験受験手續事務説明会 10) 県内医療機関等合同就職説明会の計画と実施 　　キャリア支援として全学生を対象とし、希望があれば保護者の参加も認める 11) 3 年生就職ガイダンスおよび卒業生の実践報告会 12) 学生からの就職相談に隨時対応 13) 就職対策関連の学外 Web 掲載内容検討</p> <p>平成 25 年度の重点活動</p> <p>1) 県内就職率 31.9% を上げるため学生への激励と県内就職の情報提供 2) 国家試験対策→合格率 100% 向けて学生国家試験委員との連携、強化、卒業研究指導教員への働きかけ 3) 県内医療機関等合同就職説明会の成功に向けての取組</p>

成果と課題	<p>平成 24 年度 成果と課題</p> <p>1) 県内就職率が 31.9% にとどまったく事を受け、今後の対策を検討した。</p> <p>2) 国家試験対策を講じたが、看護師不合格者 5 名の結果となつたため就職率 94.8% となつた。</p> <p>3) 県内医療機関合同就職説明会 33 の医療機関がブースを活用し、説明会を行つた。 内 18 の医療機関が全体説明会に参加し、病院紹介を行つた。</p> <p>平成 25 年度 成果と課題</p> <p>1) 県内就職率 31.9% から 40.2% となつた。これからも就職率向上に向けて就職対策委員会として対策を協議し学生の就職支援に当たる。</p> <p>2) 国家試験 看護師の不合格者 2 名であり、このため就職率が 96.0% となつた。来年はさらに対策を強化する。</p> <p>3) 卒業生の看護実践を知る会及び就職ガイダンスの際に、卒業生を招き実践をきく場づくりを行つた。卒業生の選考においては、県内に就職した卒業生を対象とし実施した。身近な存在であることからも在学生からは好評であった。 これからも本学の卒業生のキャリアを知って学生自らが自分のキャリアアップの方向が見えるよう関わる。</p> <p>4) 県内医療機関合同就職説明会：昨年、時間が大幅に伸びたこともあり、時間内で終われるよう計画に工夫した。3年生全員参加、1～2年生も数名参加し、保護者 2 名が参加された。次年度も県内就職率アップに向けて計画・実施する。</p>
今後の取組	<p>1) 県内就職率 45% を目標とする。</p> <p>2) 国家試験 100% を目標に学年顧問、学生の国家試験対策委員と連携して対策を講ずる。</p> <p>3) 卒業生の実践を知る機会をつくり、県内に就職した保助看の卒業生の協力を得て実施する。</p> <p>4) 県内医療機関合同就職説明会のレベルアップと充実を図る。</p>

委員会名	附属図書館運営委員会
所掌事項	<p>(1) 宮崎県立看護大学附属図書館（以下「図書館」という。）の管理運営に関すること</p> <p>(2) 図書館の管理運営に関する諸規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(3) 図書館資料購入の選定及び調整に関すること</p> <p>(4) 情報ネットワークに関すること</p> <p>(5) その他図書館に関すること</p>
活動内容	<p>附属図書館運営委員会及びその専門部会である図書選定部会は、概ね月に1度の頻度で開催し、平成24年及び平成25年度の主な活動内容は次のとおりであった。</p> <p>(1) 図書館資料の選定</p> <p>(2) 藏書点検の実施・図書館資料の除籍</p> <p>(3) 機関リポジトリの構築</p> <p>(4) 情報検索システムの活用推進</p> <p>(5) 広報</p>
成果と課題	<p>(1) 図書選定部会において、学生・教員・職員の希望を元に図書館資料を選定した。今後とも、図書館資料の充実を図るために、学生等の図書購入希望を奨励し、新刊コーナー、教員お薦めの本情報の充実を図る必要がある。</p> <p>(2) 藏書点検を実施し、破損や汚損が甚だしい図書、必要以上の複本となっている図書、藏書点検において不明である図書等について、除籍した。藏書スペース確保のため、適切な藏書点検及び書架整理が必要である。</p> <p>(3) 研究内容の国際的な視認性を高めるとともに、社会に対する大学の活動を訴求するために、機関リポジトリ（教育・研究成果物を情報発信するシステム）を構築した（平成26年4月の掲載状況：学位論文7件、学術論文29件、研究紀要（全13号））。</p> <p>(4) 各種の情報検索システム（オーパックシステムやマイライプラリを通しての図書購入希望、文献複写依頼等）の利用実績を高める必要があり、大学院生や学部生に対する説明会等を実施した。</p> <p>(5) 図書館利用者の便宜向上及び利用者増に資するため、新学外Webの図書館ページについて、図書館の開館情報や新着図書情報を掲載するなど情報を充実することとした。</p>
今後の取組	<p>平成17年度に大学院博士課程（後期）、平成26年度に認定看護師教育課程が設置されたところであり、レファレンス機能等のさらなる充実が必要である。</p> <p>窓口は、非常勤職員による運営となっており、利用者に対してのサービス拡充に向けて、人員配置の検討や関係情報の収集、研修への積極的な参加に努める必要がある。</p> <p>また、ITを活用した図書館機能の充実として、機関リポジトリ掲載論文数の増を図るとともに、電子ジャーナル、電子書籍の導入が検討課題となるが、これらの充実には、予算措置及び図書館員の能力向上が不可欠である。</p> <p>図書館資料については、本学に必要な資料の充実を図る必要があるが、限られた予算を有効に執行するため、購入中の雑誌の活動頻度や必要性を検討し、取捨選択していくことが必要となる。</p> <p>書架の収容数は、設計上、10万冊（開架書架5万冊、集密書架5万冊）であるが、医学関係の大型本を多く配架していることから、実際は設計値より少なくなることが見込まれるため、書架・書庫の増設や配置換え、不要となった図書館資料の除却についても検討が必要である。</p>

委員会名	看護研究・研修センター運営委員会
所掌事項	(1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること (2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること (3) その他センターに関する重要事項に関すること
活動内容	<p>平成 24 年度及び平成 25 年度</p> <p>(1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること</p> <p>① <u>県民連携事業</u>：県民の保健・医療・福祉の向上を目的とし、自治体や民間の N P O 法人等と連携しながら研究成果を地域住民へ還元する事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しく「輪ッハッハ！」教室（親子参加型の子育て支援事業） ・宮崎における子育て支援事業（おもちゃ広場の開催と育児相談） ・思春期のヘルスケア開発事業（月経のヘルスケアプログラムの実施） ・公開講座（健康づくり等をテーマとした「健康度アップ講座」「文化に親しむ講座」）等 <p>② <u>地域看護職等連携事業</u>：地域の看護職専門職の専門性の向上を目指し、地域の医療機関や保健師等と連携しながら研修や看護実践をおこない地域や臨床現場に研究成果を還元する事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職者のための看護力再開発講習会－技術演習コース－（再就職を目指す看護職者への支援） ・宮崎県内の急性期医療に携わる看護職者の看護実践力向上のための支援 ・看護研究支援、研修会講師等派遣事業（現場の研究指導や研修会講師に教員を派遣）等 <p>③ <u>官学連携事業</u>：県福祉保健部のシンクタンクとして県の行政課題に大学の人材を活用した調査・研究等をおこなう事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師の力育成事業（新任保健師、中堅保健師、リーダー保健師の現任教育） ・児童養護施設における生きる力「性＝生」教育開発支援事業 ・学校版月経ヘルスケアプログラム作成事業 等 <p>④ <u>看護研究・研修センター事業年報の発行</u>（年 1 回） 平成 23 年度版宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報（第 1 号）及び平成 24 年度版宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報（第 2 号）を発行した。</p> <p>(2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること</p> <p>① 教育研究連携事業 ② 学生交流事業 ③ 地域連携事業</p> <p>(3) その他センターに関する重要事項に関すること</p> <p>① <u>認定看護師（感染管理）教育課程開設準備事業</u> 感染症に関する高度な専門知識を身につけ、感染予防、監視、管理ができる能力、及び感染管理の質の向上を目指した教育・指導ができる能力を育成し、施設内においてリーダーシップを發揮し、医療の安全と質の向上に力を發揮できる人材の育成を行うことを目的に認定看護師（感染管理）教育課程開設準備事業に取り組んだ。 認定看護師（感染管理）教育課程開設準備部会を設置し、平成 24 年に 7 回、平成 25 年度に 16 回の準備部会を開催し教育課程の編成、実習施設の確保、教育環境の整備に関する具体的な事項を検討していった。また、認定看護師課程開設のための広報及び受験者事前学習の場として感染管理スキルアップ研修会を開催した。</p>

成果と課題	<p>(1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること</p> <p>①成果：県政課題や地域の課題の解決に、行政（自治体）・関係機関、看護実践現場などと連携しつつ取り組むことができた。また、保健・医療・福祉の分野に関連する地域に密着したテーマに対する多様な研究活動が行われた。また、県民ニーズをアンケート等で把握し、公開講座の内容に反映する工夫も行いながら、公開講座の充実をはかると共に、教員の専門性を活かした県民対象の公開講座や関係機関と連携した看護職者の現任教育への支援など看護職者の資質の向上を目指した学習の機会を提供することができた。</p> <p>②課題：地域ニーズを把握する仕組みづくりを行うこと。学生参加型の地域貢献事業を拡大すること。研究成果の地域への還元を促進すること。看護職者間のネットワーク構築や関係機関との連携強化をはかること。</p> <p>(2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること</p> <p>①成果：県内の大学間連携は、コンソーシアム宮崎への委員の派遣、コーディネート科目への講師の派遣を行うと共に、単位互換の科目を2科目提供し、コンソーシアム宮崎との連携活動が実現できた。</p> <p>②課題：コーディネート科目等に本学からの受講生がないため、本学学生の参加を促していくこと。</p> <p>(3) その他センターに関する重要事項に関すること</p> <p>①成果：平成26年度8月教育課程の開講を目指し、平成25年度8月に教育機関認定審査申請書を提出した。その結果、日本看護協会より、平成25年10月21日付けで宮崎県立看護大学看護研究・研修センターが感染管理認定看護師教育課程の教育機関として認定された。</p> <p>②課題：感染管理認定看護師教育課程を円滑に運営していくこと</p>
今後の取組	<p>(1)全学的取組に向けた体制づくり</p> <p>(2)地域ニーズ把握の体制づくり、対話の場の設定</p> <p>(3)県民ニーズ、施策を踏まえた学生参加型の新たな地域貢献事業の展開</p> <p>(4)県民ニーズ、施策を踏まえた研究成果の地域への還元</p> <p>(5)看護の質の向上を目指し、関係機関と連携した新たな地域貢献事業の展開</p>

委員会名	感染症対策検討専門部会
所掌事項	<p>(1) 麻疹、風疹、流行性耳下腺炎の既往、予防接種歴、抗体価について、学生の実態を把握し、予防対策を検討すること</p> <p>(2) 学生のH B V、H C V、H I V等の血中ウイルス感染予防対策を検討すること</p> <p>(3) 学生の性感染症予防対策を検討すること</p> <p>(4) インフルエンザ、結核、その他の感染力の強い感染症が発生した場合の対策について検討すること</p>
活動内容	<p>平成 25 年 4 月、危機管理対策委員会規定第 8 条 部会員任期に伴う変更により、25 年度から危機管理対策委員会専門部会として新たな部会員により発足された。</p> <p>1) 感染症対策危機管理マニュアルの作成</p> <p>2) 感染に関する検査、予防接種、感染予防に関する指導などの年間計画を作成</p> <p>3) 入学前より H B s 抗原陽性学生への対応検討 特に実習に向けての対策について検討する。</p> <p>4) 結核罹患者を実習で受け持ち、接触した学生への保健所への調査文書の提出に関する事項</p> <p>5) 「学校において予防すべき感染症」罹患証明書の作成と学生周知に関する事項</p> <p>6) 入学時の血液検査項目から C 型肝炎検査の必要性を検討した。</p>
成果と課題	<p>1) 感染症対策危機管理マニュアルを危機管理委員会に提出し、危機管理委員会の基でマニュアルの対応と対策について実施していく。</p> <p>2) 感染症に罹患者に接触した学生については、緊急対応により対処ができた。また「学校において予防すべき感染症」罹患証明書により、罹患学生が出た場合の緊急対応ができるようになった。今後はこれらを活用して予防に取り組む。</p> <p>3) C 型肝炎は 1980 年代の輸血によるものが多く、今の学生は感染の機会がないことから入学時の血液検査項目から除外した。</p>
今後の取組	<p>1) 感染症対策危機管理マニュアルの活用の周知徹底</p> <p>2) 感染症予防対策の具体的な実施</p> <p>3) 緊急対応組織図（フローチャート）の運用、活用により感染症予防対策の推進</p>